

来るべき御国

目次

あなたのための神の愛	5
挑まれている神の御国	10
御国の相続者	15
成就した約束	20
不法の秘密	25
終わりの時代の安息日	31
調査審判	36
地の最後の警告	41
神の僕たちが印される	46
キリストの再臨	52
最後の敵	57
千年紀と新地	62
あなたのうちにある御国	67

セブンスデーアドベンチスト
改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.91, No.4

編集&発行:
S DA改革運動日本ミッション

〒368-0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607-1

TEL: (0494) 22-0465

FAX: (0494) 40-1045

URL:
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト: Illustrations: Good
Salt on the front cover;
MapResources on pp. 4, 51,
and back cover.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能な限り短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

わたしたちはきわめて重大な時代に生存しています。あらゆる領域において—科学、宗教、政治、自然界—かつて目撃したことのなかった新しいことが日々見られます。新しい科学的な発見がわたしたちを驚かせ続けている一方で、自然の状態は由々しき動向を見せており、自由の追求は世界を縦横する新しい争闘や混乱のただ中で続いています。

多くの人々は来るべき大事件を予期しながら生きています。これらの期待は広く多岐にわたりますが、地球全体が何かに対して準備をしています。クリスチャンにとって、近い将来は、善と悪の間の決着における最終的な諸事件が明らかにされることになっています。確かに生きるのに、壮大にして畏怖の念を抱かせるような時代です。

多様性に富んだ宗教や文化の中で、将来何が起こるかについては、数多くの様々な見解があります。「アドベンチスト」というわたしたちの名前の言葉は、イエスの来臨が間近であることへの期待を意味しています。しかしながら、多くのクリスチャンがいますが、来臨に対する彼らの期待は一樣ではありません。

イエスが地上に来られた初臨の際にご自身の民によって誤解されたのと同様、再臨も今日よく理解されていません。この主題に関する一般の見解はしばしば間違った前提に基づいており、重要な点が除外され、危険な結論へと導いています。

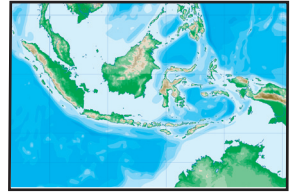
王国の性質、最後の諸事件、何が起ころうとしているのか—これらはみな様々な意見や相反する見解のある点です。しかしながら、世の終わりやとこしえの御国の到来といった重要な事柄は、神のみ言葉が明らかにしている通りに十分理解しなければなりません。

「御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように」(マタイ 6:10) というのは、現在だけでなく、地の全住民が神のみ旨を実行する将来の時まで予見している祈りです。しかし、これはどのようにして現実になるのでしょうか。よくある誤謬を述べるよりもむしろ、わたしたちはともに神のみ言葉から真理の諸原則を研究していきます。誤謬は真理そのものによって一掃されます。それはちょうど光があるところで、闇が自然に消滅するのと同じです。教師は、関連する事柄をクラスで適切に扱い、それによって個々の質問に答えを得られるように、これらの事柄に精通することが奨励されています。

今期は皆さんの励みと学びのためです。それは今日世の中にある疑問や問題を探っています。皆さんが提示されている主題の研究から祝福を受けますようにというのが、わたしたちの希望であり、祈りです。

世界総会安息日学校支部

第一安息日学校献金 西インドネシアミッションの 礼拝堂のために



地上における第四番目の人口大国であるインドネシアの人口は、2014 年時点でおよそ 2 億 5280 万人です。ここは世界で最大のイスラム国家です。イスラム教が人口の大部分で守られてはいますが、宗教は実に多岐にわたっています。ヒンズー教、仏教、ローマ・カトリック、プロテスタント（ペンテコステ派、セブンスデー・アドベンチスト、またその他のキリスト教派）、またその他の宗教など、この国では自由に信仰を守ることができます。

ステファン・バラト兄弟が、1973 年の短期間の訪問の際に、インドネシアでの働きを開始しました。A.C. サス兄弟がまもなく求道者たちを助け、同年の 7 月には、北スラウェシ島地域で 50 人がバプテスマを受けました。その後数年のうちに、強力なユニオン会議が設立され、20 年間続きました。しかしながら、後年、数多くの困難により、ユニオンは結局解散しました。2011 年にここでの働きを再構築するのを助けるためにフィリピンからインドネシアに牧師が派遣されました。わたしたちが今や二つのフィールドと一つのミッションを再結成したことを神様に感謝します。

わたしたちの西インドネシアミッションには、ジャカルタも含まれていますが、この国で最も小さな単位です。ジャカルタの教会はかつてこの国でもっとも安定した教会でした。しかし、長年にわたり霊的な困難を経験し、教会員が減少しました。2011 年以来実行されてきた霊的な働きの結果、今や教会が成長していることを神様に感謝します。多くの新しい教会員が加えられ、真理に関心を持つ求道者の数は増えています。2014 年 9 月には、西インドネシアミッションとしてわたしたちは組織されました。

わたしたちは今やジャカルタにある古い本部を改装し、シレウングシに新しく組織された教会のために礼拝の場所を確保する必要があります。わたしたち西インドネシアミッションはまだ立ち上がったばかりで、資金はごく乏しいものです。そこで世界中にいる兄弟姉妹友人方に 2015 年 10 月の第一安息日献金では、西インドネシアにおける主の働きに向けて、惜しみない献金をお願いしたいと思います。

皆さんの金銭的な支援にさきだってお礼を申し上げますと共に、近いうちに古い本部を改装し、神様の栄光のために新しい礼拝の家を購入することができますように祈ります。

西インドネシアミッションの皆さんの兄弟姉妹より

あなたのための神の愛

「神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。」(ヨハネ第一 4:9)

「十字架にかかっておられるときにキリストは福音であられた。……これがわたしたちのメッセージ、わたしたちの教理、悔い改めない者へのわたしたちの警告、悲しんでいる者へのわたしたちの励まし、すべて信じる者のための希望である。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1113)

推奨文献：キリストへの道 1-12

日曜日

9月27日

1. 愛の証明

a. わたしたちの創造主のもっとも永続的な特徴は何ですか (ヨハネ第一 4:16)。

『神は愛である』(ヨハネ第一 4:16) という言葉が、すべての開くつばみに、すべての花びらに、すべての草の上に書かれている。……自然界のものは、みな、父親のように思いやりのある神の保護と、子供たちの幸福を願う神の心を証拠立てている。神の禁止や命令は、ただ神の権威を誇示するだけのものではない。神は、神の子供たちの幸福を考えて万事を行なわれる。」(人類のあけぼの下巻 261)

b. 神はどのようにもっとも完全にご自分の愛を証明されましたか (ヨハネ 3:16; ローマ 5:6-8)。

「そして十字架の光に照されて神のご性質を学べば学ぶほど神の恵みとあわれみを知り、神の公平と正義とゆるしとが一つになっていて、放蕩むすこを思いやる母親にもまさる限りない優しい愛の数知れない証拠を認めることができるのである。」(キリストへの道 12)

2. 罪から救われる

- a. イエスはご自分の犠牲によって、どの偉大な使命を果たされましたか（マタイ 1:21）。

「イエスは天父のそばにとどまることもおできになった。イエスは天の栄光を保ち、天使からあがめられていることもおできになった。だがイエスは、暗黒のうちにあ
る者に光を与え、滅びる者にいのちを与えるために、王権を天父のみ手にかえし、
宇宙の王座からおりることを望まれた。」（各時代の希望上巻 5, 6）

「キリストの使命は苦難を通してのみ成就することができるのだった。イエスの前には、悲しみと困難と戦いの人生と屈辱的な死があった。イエスは全世界の罪を負われねばならない。彼は天父の愛から離れることを忍ばねばならない。」（同上 143）

- b. すべての人のためのこのお方のみ旨は何ですか（ペテロ第二 3:9; テモテ第一 2:4）。

「当然キリストが受けられるべきとり扱いをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれが当然受けるべきとり扱いを受けられた。われわれのものではなかったキリストの義によってわれわれが義とされるように、キリストはご自分のものではなかったわれわれの罪の宣告を受けられた。キリストのものであるいのちをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれのものである死を受けられた。」（同上 11）

- c. わたしたちの罪のためのキリストの死の恩恵を、わたしたちはどのように受けますか（使徒行伝 16:31; ヨハネ第一 1:9）。

「神のあわれみをうける条件は簡単で、しかも正しく合理的である。神は、わたしたちの罪がゆるされるには、なにか面倒なことをしなければならないとは要求なされない。長途の巡礼の旅に上ったり、痛々しい苦行をしたりして、天の神に自分がよく思われようと思ったり、罪の償いをしようとしなくてもよいのである。ただ罪を言い表わして、これを離れる者はあわれみをうけるのである。」（キリストへの道 45）

「キリストはすべての正しい動機の根源であって、かれのみが人の心のうちに罪を憎む心を植えつけることができるのである。真理や純潔をしたい、自分の罪深さを認めることなどはみな、キリストの霊がわたしたちの心に働いている証拠である。」（同上 28）

a. 救われることには許しだけでなく、他に何が含まれていますか (テトス 2:11-14; ガラテヤ 2:20)。

b. 改心したクリスチャンのうちで、神の力は何をしますか（ピリピ 2:13; ヘブル 13:20, 21）。

「わたしたちが神性にあずかるとき、先天的また後天的な悪への傾向が品性から切り離される。そしてわたしたちは善のための生きた力となるのである。つねに神聖な教師から学び、日ごとにこのお方の性質にあずかり、わたしたちはサタンの誘惑に打ち勝つことにおいて神と協力するのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント 17 巻 943])

c. わたしたちの絶えざる祈りは何となるべきですか (詩篇 139:23, 24)。

「人間は、自分で自分をむなくすることはできない。ただキリストが働いてくださることに同意することができるに過ぎない。そうすれば魂は次のように言うようになる。わたしは弱いのです。そして少しもキリストに似ていません。このようなわたしですが、どうぞお救いください。主よ、わたしの心をお受けください。わたしはこれをささげることはできません。これは、あなたのものです。どうぞきよく保ってください。これを、わたしが保っていることはできません。どうぞ、わたしを練り、形造り、清い聖なるふんい気の中に引き上げて、あなたの豊かな愛の流れが、わたしを通して流れ出るようにしてください。」(キリストの実物教訓 139)

4. 霊的な闘い

- a. 毎日、どのような内なる戦いを戦わなければなりませんか（箴言 16:32; エペソ 6:11）。

「自己との戦いは、かつて闘われた中で最も大きな戦いである。」（キリストへの道 54）

「十字架は、一人として滅びる必要はなく、豊かな助けがすべての魂のために備えられているという誓いとして立っている。」（セレクトド・メッセージ 1 巻 96）

- b. 義人の救いにおいて、最終的な段階は何ですか（ヘブル 9:28; コリント第一 15:51-54）。

「〔イエスのうちに眠っている人々は〕この死すべき命においては、奇形であったり、病気であったり、外観が損なわれていたりしたかもしれないが、よみがえり栄化された体でも、彼らの特徴は完全に保存されており、イエスの顔から輝く光に照らされた顔のうちに、わたしたちは自分の愛する者たちの容貌を認めるのである。」（預言の霊 3 巻 219）

「生きている義人たちは、『またたく間に、一瞬にして』変えられる（コリント第一 15:52）。彼らは、神のみ声によって栄化された。今や彼らは不死の者とされて、よみがえった聖徒たちとともに、空中において主に会うために引き上げられる。」（各時代の争闘下巻 424）

- c. 戦いはいつ最終的に終わりますか（テモテ第二 4:7, 8）。

「〔新エルサレムにおいてキリストの〕み座のいちばん近くには、かつてサタンの業に熱心であったが、火の中からの燃えさしのように取り出されて、深い熱心な信仰をもって救い主に従ってきた者たちがいる。その次には、虚偽と不信仰のただ中であってキリスト者の品性を完成した者たち、キリスト教界が神の律法は無効であると宣言した時にも律法を尊重した人たち、さらに、各時代にわたり、信仰のために殉教した無数の人たちがいる。そしてその向こうには、『あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手にとって、御座と小羊との前に』立っている（黙示録 7:9）。彼らの戦いは終わり、彼らの勝利は獲得された。彼らは走るべき行程を走り、ほうびをもらった。彼らの手にあるしゅろの葉は勝利の象徴であり、白い衣は、今は彼らのものとなっているキリストの汚れなき義を示している。」（同上 450）

5. ノックする手

- a. 今日、イエスはどの招きをすべての魂に差し伸べておられますか（ヨハネ 7:37, 38; 黙示録 22:17）。

「自然界にも働いているこの同じ神のみ心は、人の心に呼びかけ、人が持ち合わせていない何ものかに対する表現しがたい渴望を起させるのである。この世のものではどうしてもかれらの渴望を満たすことはできない。神のみたまは心に真の平安を与えうる唯一のものであるキリストの恵みと、きよめの喜びを求めるように訴えている。わたしたちの救い主は、絶えず見える見えないにかかわらず、さまざまな力を用いて、満足のない罪の快樂を離れキリストによって与えられる限りない祝福を求めるよう、わたしたちの心に働いておられる。この世のかわきぎった泉のほとりで飲もうとしても飲むことのできない人々に、み言葉は、次のように呼びかけている。〔黙示録 22:17 引用〕。

あなた方のうちで、この世の与えるものよりもさらに良いものを心の中で求めている人は、その心の願いが魂へ呼びかける神のみ声であることを認めることができる。」（キリストへの道 30, 31）

- b. わたしたちの心の戸をたたいている手について、わたしたちは何を覚えておくべきですか（黙示録 3:20; ゼカリヤ 13:6）。

「わたしたちは、十字架のもとに集まらなければならない。キリスト、しかも十字架につけられたキリストがわたしたちの瞑想と会話、また、なによりも喜ばしい感激にあふれた主題でなければならない。神から受けたすべての恵みを心にとめてその大いなる愛を悟ったならば、わたしたちのために十字架に釘づけられたみ手に、喜んですべてをお任せするはずである。」（同上 143, 144）

個人的な復習問題

1. 神はどのようにあなたへのご自分の愛を証明されましたか。
2. 人類一人びとりのためのキリストの死にはどのような意味がありますか。
3. 救いは単なる過去の罪の許しを、どのように超えていますか。
4. 救いの働きを完成する最後の段階は何になりますか。
5. イエスがあなたの心の戸をたたかれるのに応えるために、今日を最上の日とするものは何ですか。

挑まれている神の御国

「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。」(創世記 3:15)

「神は大争闘の進行に従って明らかにされる事実によって、これまでサタンとサタンに欺かれたすべての者が偽り伝えてきた、神の統治の原則を実証なさるのである。」(人類のあけぼの上巻 73)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 1-16

日曜日

10月4日

1. とこしえの御座

- a. 神の御子の地位と力についての記述から、わたしたちは神の統治について、何を学ぶことができますか(詩篇 45:6; ヘブル 1:1-3)。

「地が豊かな産物を生じ、年々に太陽の周囲を運行しつづけるのは、地球の固有のエネルギーによるのではない。惑星は人の目に見えない手に導かれて天の軌道をめぐる。」(教育 104)

- b. この王国の基礎をなす律法について、わたしたちは何を知っていますか(詩篇 19:7; マタイ 22:37-40)。

「神の律法は神の品性そのものを表現したものであり、愛の原則を具体化したものであるから、天にあっても地にあっても神の政府の基礎である。」(キリストへの道 78)

「愛の律法は 神の統治の基礎であるから、すべての被造物の幸福は、この偉大な義の原則に完全に一致することにあつた。神は、すべての被造物の愛の奉仕、すなわち、神のご品性に対する賢明な理解から生ずる尊敬をお望みになる。」(各時代の争闘下巻 229)

2. 対抗する王国

- a. ツロの王の比喻を通して、聖書はルシファーの墮落を、どのように描写していますか (エゼキエル 28:11-15)。

「キリストに次いで最も神から栄誉を受け、天の住民の中で最高の権威と栄光を与えられていた者から罪が始まった。ルシファーは、墮落する前は、清く汚れない、おおうことをなすケルビムの中の第一位の者であった。」(各時代の斗争闘下巻 229)

- b. 今やサタンと呼ばれているルシファーは、どのように神の統治に挑みましたか (イザヤ 14:12-14)。

「ルシファーは、神の御前の自分の場所を離れて、天使の間に不満の精神を流布するために出ていった。彼は極秘のうちに働いた。そして、彼はしばらくの間、神を崇敬しているふうを装って、彼の真意を隠していた。彼は、天使たちを支配していた律法に対する疑惑をほのめかし始めた。そして彼は、諸世界の住民にとって、律法は必要であろうが、天使たちは、彼らよりもすぐれたものであり、自分自身の知恵が十分な道しるべとなるから、こうした制限は不必要であると言った。彼らは、神のみ名を汚し得るものではない、その思想もすべて清いのである……と言うのであった。」(人類のあけぼの上巻 7)

- c. この挑戦は、どのような結果になりましたか (黙示録 12:7-9; ルカ 10:18)。

- d. 地に投げ落とされて、サタンはどの地位を横領しましたか (ヨブ 1:7; ヨハネ 14:30)。

「サタンの主権はアダムから横取りしたものであったが、アダムは創造主の代理者だった。アダムの支配は独自の支配ではなかった。地は神のもので、神は万物をみ子におまかせになっていた。アダムはキリストの支配下にあって統治するのであった。アダムが統治権をサタンの手に売り渡しときにも、キリストは依然として正当な王であられた。……サタンは神のゆるしがあるときだけ、その横取りした権威を行使することができる。」(各時代の希望上巻 143, 144)

3. 地上における争闘

- a. 人類がおかれた本来の地位は何でしたか（詩篇 8:4-6）。
- b. ヘビを通して、サタンはどのようにアダムとエバを争闘へ引き込もうとしましたか（創世記 3:1, 4, 5）。

「彼らが、〔園の中央にある〕この木の実を食べるならば、もっと高い存在者となり、さらに広い知識をもつことができると、彼は言った。へび自身も、禁じられた実を食べたために、話す能力を得たのだと言った。そして、主は、彼らの地位が高められて、主ご自身と等しくならないように、何とかして、この実を彼らに与えまいとしておられるのだとほめかした。神が、それを味わうこと、また、それに触れることさえ禁じられたのは、それに知恵と力を授ける驚くべき性質があるからである。神の警告は、実際にその通りに成就するものではなくて、ただの威嚇にすぎないのだ、また、彼らは、どうして死ぬことができようか。彼らは、いのちの木の実を食べたのではなかったか。神は、彼らが気高く成長し、より大きな幸福を見いだすことを妨害しておられると彼は言った。」（人類のあけぼの上巻 40.41）

- c. サタンの誘惑を通して、人類に何が起こりましたか（ローマ 6:16; 5:12）。
- d. 地上の人類の主権は、どのように失われましたか（創世記 3:24; 9:2）。

「自然全体は、罪ののろいのもとにあつて、神に対する反逆の性質と結果を人間にあかしすることになった。神は人間を創造なさったときに、彼を地とすべての生き物の統治者にされた。アダムが、天の神に忠誠をつくしていたかぎり、自然全体は彼に従っていた。ところが、彼が神の律法にそむいたとき、下等の動物は、彼の統治にそむいた。こうして、主は、その大きな慈悲をもって、神の律法の神聖さを人間に示し、彼ら自身の体験によって、ささいなことにおいても、律法の無視がどんなに危険であるかを悟るようにされた。」（同上 49）

4. 来るべき王に希望をもつ

a. へびに宣告されたのろいの中に埋め込まれた約束を描写しなさい(創世記 3:15)。

「アダムとエバが聞いているところで語られたこの宣告は、彼らにとっては、約束であった。そこには、人間とサタンとの戦いが予告されていたが、この大敵の力がついに碎かれることが宣告されていた。アダムとエバは、正しい審判者の前に罪人として立ち、犯した罪の宣告を待っていた。しかし、彼らは、自分たちの分である労苦と悲しみの一生、また、ちりに帰らなければならないという宣告を聞く前に、希望を与えずにはおかない言葉を聞いた。彼らは、大いなる敵の力に苦しまなければならないが、最後の勝利を待望することができたのである。」(人類のあけぼの上巻 58)

b. この約束はどのように成就されることになっていましたか(ヨハネ 12:31, 32; テモテ第一 3:16)。

「われわれをあがなう計画は、あとで考え出されたもの、すなわちアダムの墮落後に定められた計画ではなかった。それは、『長き世々にわたって、かくされていた奥義』のあらわれであった(ローマ 16:25)。それは永遠の昔から神の統治の根本となってきた原則のあらわれであった。初めから、神とキリストは、サタンの背信と、この反逆者の欺瞞的な力によって人類が墮落することを知っておられた。神は罪が存在するように定められたのではなく、その存在を予見し、その恐るべき危機に応ずる備えをされたのであった。世に対する神の愛はまことに大きかったので、神は、『み子を信じるものがひとりも滅びないで、永遠の命を得る』ために、そのひとり子を与えることを約束された(ヨハネ 3:16)。」(各時代の希望上巻 5)

c. 預言者たちは来るべきメシヤの特徴を、どのような王家の言葉をもって描写しましたか(創世記 49:10; イザヤ 9:6, 7)。

「神のみ子が、救い主としてまた王として来臨されて、〔人類と彼らが失った主権の〕贖いを行われるというこの希望は、人々の心の中から消えたことはなかった。暗いこの世のかなたに、来たるべき現実の世界を信仰によって待望した人々が最初からあった。」(国と指導者下巻 280)

5. 二種類の人々が明らかになる

- a. 次の聖句を比較して、人類のうちに明らかにされる二種類の人々を描写しなさい（ローマ 8:14; ヨハネ第一 3:1; ローマ 1:21, 22; エペソ 2:1-3）。

「人間が増加するに従って、二つの種類の人々の差はますます明らかになった。一方は神への忠誠を公に告白していたが、他方は軽べつと不服従をあらわした。」（人類のあけぼの上巻 76）

- b. カインとアベルの経験は、どのように人類の状態を描写していますか（ヘブル 11:4; ヨハネ第一 3:12）。

「カインとアベルは、終末に至るまで世界に存在する二種類の人々を代表している。一方は罪のために定められた犠牲を受け入れるが、他方は、あえて自分の功績にたよろうとする。彼らの犠牲は、神の仲保のいさおしによらないものであつて、神の恵みにあずかることはできない。われわれの罪は、ただイエスの功績だけによつて許される。……罪の奴隷から解放される道はほかに備えられていない。」（同上 68）

- c. 今日、アダムの子ら一人びとりに、どの選択肢が提示されていますか（ローマ 6:16）。

個人的な復習問題

1. 永遠から神の律法が存在してきたことが、どのようにわかりますか。
2. ルシファーは、どのようにして神の統治の基礎そのものに挑みましたか。
3. 人類は今日なお、へびの嘘によって、どのように欺かれていますか。
4. 古代、信徒たちの信仰を活気づけた希望は、何でしたか。
5. 現代のカインとアベルに相当する人々がだれかをあげなさい。

御国の相続者

「愛する兄弟たちよ。よく聞きなさい。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富ませ、神を愛する者たちに約束された御国の相続者とされたではないか。」(ヤコブ 2:5)

「キリストにある者はみな、『アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである』。すなわち、罪ののろいの取り去られた地の『朽ちず汚れず、しばむことのない資産を受け継ぐ』相続人である。」(人類のあけぼの上巻 179)

推奨文献： 国と指導者下巻 279-304

日曜日

10月11日

1. 前途を望み見る

- a. 福音はどのように要約することができますか (ローマ 1:16, 17)。
- b. だれがそれを聞かなければなりませんか。また、彼らはどの選択をする必要がありますか (マタイ 24:14; マルコ 16:15, 16)。

「福音事業の任命を完成するために、神の教会の会員が、光の必要な自国や外国の伝道地で、それぞれ定められた働きをするならば、まもなく全世界に警告がゆきわたり、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの世にもどってこられるのである。」(患難から栄光へ上巻 116)

- c. どの種類の人々が救いを自分のものとすることができますか (使徒行伝 10:34, 35; ローマ 8:14; エペソ 3:6)。

「救いの祝福はすべての魂のためである。自分自身でえらぶ以外には、どんなものも、人が福音を通しイエス・キリストにあつて約束にあずかる者となるのをさまたげることはできない。」(各時代の希望中巻 164)

2. 古代の神の民に対するみ約束

a. アブラハムとその子孫に、どの約束が与えられましたか（創世記 12:1-3; 13:14-17）。

「ユダヤ民族を通して豊かな祝福を全人類に与えることが神のみ旨であった。イスラエルを通して、神の光を全世界に輝かせる道が備えられなければならなかった。

.....

神が偶像礼拝をしていた親族のうちからアブラハムを呼び出してカナンのに住むようにお命じになったのは、このみ旨を果たすためであった。」（キリストの実物教訓 264）

b. なぜ神は、実際にパレスチナの地を所有することになるまで、アブラハムの後、幾世代も待たれたのですか（創世記 15:13-16）。

「世界の諸国は、墮落した習慣におちいることによって神の知識を失っていた。しかし、あわれみある神は彼らを滅ぼしたりなさらなかった。神は、教会を通して神を知る機会を彼らに与えようと意図なさった。」（同上 264）

「アモリ人は偶像教徒であって、彼らが滅ぼされるのは、当然彼らの大いなる悪のゆえであったが、神は、ご自身が唯一の真の神であり、天地の創造主であることのまちがいのない証拠を彼らに与えるために、四百年の間、彼らに生きることをおゆるしになった。彼らは、イスラエル人がエジプトから導き出されたときに行なわれた神のすべての不思議なみわざを知っていた。十分な証拠が与えられていた。彼らは、もし、その偶像崇拜と放縦な生活から離れようと決心していたなら、真理を知ったことであろう。」（人類のあけぼの下巻 39）

c. 最終的にアモリ人はどうなりましたか（士師記 11:21-24）。

「アモリ人の国境に来たとき、イスラエル人はこれまで他の国々と交渉のあったときに用いた同じ規則を守ることを約束して、ただ国の中をまっすぐに通過する許可を求めたのであった。アモリ人の王が、この礼を尽くした願いを退け、無礼にも戦いをいどんで軍勢を召集したとき、彼らの悪の杯は満ちた。神は今、彼らをくつがえすためにその力を発揮されるのであった。」（同上 39）

3. 破られた契約

- a. イスラエルは、どのように約束の地に彼らをおかれた神のご目的のために生きることに失敗しましたか (士師記 2:10-13)。

「ヨシュアの教えを受けた世代がなくなってしまうまでは、偶像礼拝はほとんど広がらなかった。しかし、両親が子供たちの背信の道を開いた。カナンを占領した人々が、主の制限を無視したことが悪の種となり、その後、幾世代もの間、苦い果実を結び続けた。ヘブル人の単純な習慣は、彼らを肉体的に健康にした。ところが、異教徒と交際して食欲と情欲にふけり、徐々に体力を衰えさせ、知的、道徳的能力を弱めてしまった。イスラエル人は、自分たちの罪のために、神から離れた。神の力が彼らから去り、もはや、敵に勝てなくなった。こうして、彼らは、神によって征服するはずであったその国々に負けてしまったのである。」(人類のあけぼの下巻 190, 191)

- b. 分割された国家の北半分の最初の王の感化力のゆえに、何が起こりましたか (列王記上 14:15, 16)。

「もしイスラエルが、預言者たちの言葉を聞いたならば、彼らは、その後の屈辱を受けずにすんだのである。神が、彼らをやむを得ず捕囚とならせられたのは、彼らが、あくまでも神に離反しつづけたからであった。……

どの時代においても、神の律法を犯せば、同じ結果がそれに伴ったのである。ノアの時代に、正義の原則がことごとく犯され、罪悪が非常に深く広まって、神はそれに耐えられなくなられた……アブラハムの時代に、ソドムの人々は、神と神の律法に公然と反抗した。そして彼らは、洪水前の世界の特徴であった同じ罪悪と同じ腐敗と同じようなはなはだしい放縦に陥った。ソドムの住民は、神の忍耐の限界を越えた。そして、彼らに対して、神の報復の火が燃やされたのである。

イスラエルの十部族が捕囚になる前も、同様の不服従と同様の罪悪が行われた時代であった。神の律法は、無効なものとなされた。そして、これがイスラエルに罪悪の潮流を流れ込ませたのである。」(国と指導者上巻 263, 264)

4. ユダ王国

- a. ユダ王国は、どれくらいの間、その王家の榮譽を維持することになっていましたか（創世記 49:10; エゼキエル 21:25-27）。

「森林の王者、ししはこの部族にふさわしい象徴であった。この部族からダビデがあらわれ、ダビデの子、シロすなわち真の『ユダの部族のしし』があらわれた。ついに、この地上のすべての権力は彼を拝し、全国民は彼をあがめるようになる。」（人類のあけぼの上巻 266）

- b. 「シロ」（「その権利を持つ」お方）とはどなたでしたか。またいつこのお方がられましたか（ゼカリヤ 9:9; マタイ 21:1-9）。

「幾世紀もの時が過ぎ去った。そしてついに預言者の声もやんだ。イスラエルは、圧迫者の手に強くおさえられていた。イスラエルは神から離反するにつれて信仰はうすらぎ、希望はほとんど将来を明るく照らさなかった。多くの者は、預言者の言葉を理解しなかった。そして、信仰を堅く持ち続けるべき人々が、『日は延び、すべての幻はむなしくなった』というに至った（エゼキエル書 12:22）。しかし天の会議においては、キリストが来られる時は定められていた。」（国と指導者下巻 301）

「キリストの使命の本質を理解している人は少なかったが、その一方では、イスラエルに王国をたて、救済者として諸国民にのぞまれる偉大な君に対する期待が一般にひろがっていた。」（各時代の希望上巻 25）

- c. このお方の御国の本質とは何でしたか（ヨハネ 18:36, 37）。御国が完全に宣布されるとき、何が起こりますか（マタイ 24:14）。

「われわれの模範であられたおかたは、現世の政治から遠ざかっておられた。それは、主が人々の不幸に対して無関心であられたからではなく、これを救う方法がただ人間の外面的な手段にはなかったからである。効果があるためには、救済策は個人に及び、心を生まれかわらせねばならないのである。

キリストのみ国は、法廷や会議や立法議会などの決定や、世俗的に有力な人たちの後援によってではなく、聖霊の働きを通して、キリストの性質が人間性のうちにうえつけられることによって、建てられるのである。」（各時代の希望中巻 315）

5. 捨てられた家

- a. キリストがご自身の国家によって拒まれたとき、何と仰せになりましたか（マタイ 23:37, 38）。いつ、完全に捨てられましたか（霊的と同様に字義的にも）（マタイ 24:1, 2）。

「これまで主は宮を父の家と呼ばれた。しかしいま神のみ子が宮から離れられるとともに、神のご臨在は、み栄えのために建てられたこの宮から永久に離れるのであった。これからは宮の儀式は無意味となり、その奉仕は物笑いとなるのであった。」（各時代の希望下巻 78）

「エルサレムが軍隊にとりこまれ、包囲された住民が飢えと死に追いこまれ、……主の救いをこぼんだことにあらわれたユダヤ人の頑固さは、侵入軍への降伏をこぼむようになることを、イエスはごらんになった。……主は、あわれな住民が拷問台や十字架で苦しめられ、美しい場所が荒され、宮が破壊され、その巨大な壁が一つの石もほかの石の上に残されず、都は畑のようにたがやされるのをごらんになった。」（同上 13）

- b. キリストを拒むことによって、ユダヤ人の指導者たちは自らの上に、何をもたらしましたか（マタイ 27:24, 25）。彼らは自分たちの統治者としてだれを選びましたか。そしてこの統治者は結局何をしましたか（ヨハネ 19:14, 15; ルカ 21:20, 24）。

個人的な復習問題

1. カナンの征服を遅らせられた神のご目的を説明しなさい。
2. 今日神の民は、イスラエルが地を征服しなかった失敗から、何を学ぶことができますか。
3. イエスの御国は、なぜ神の民の期待とは非常に異なった方法で宣布されたのですか。
4. 神の家における礼拝は、今日どのようにしてその意味を失いますか。
5. 福音を聞く必要のある人々と分かち合うために、わたしはもっと何をすることができますか。

成就した約束

「もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。」(ローマ 8:17)

「主のお働きを自分たちの働きとする真の代表者を、主がこの地上に持っておられなかった時はなかった。こうした神のための証人たちは、霊的イスラエルの中に数えられる。そして、主なる神が古代の人々に約束されたすべての契約が、彼らに成就するのである。」(国と指導者下巻 314)

推奨文献：国と指導者下巻 305-321

日曜日

10 月 18 日

1. 平等な機会

- a. 無条件の約束をなさるより、むしろ神は何を期待しておられますか (エレミヤ 18:7-10)。

「神のみ言葉に、全的に服従する以外に安全はない。神の約束は、すべて、信仰と服従を条件にして与えられたもので、神の命令に応じなければ、聖書に記されている豊かな恵みにあずかることができない。」(人類のあけぼの下巻 288)

- b. 主は民のうちに、その地位や特権にかかわらず、どの資質を探しておられますか (使徒行伝 10:34, 35)。

「神の国では、地位はえこひいきによって得られるのではない。それは功績によって得られるものでも、独断的にさづけられるものでもない。それは品性の結果である。王冠と王座はある状態に到達したことのあるしるしである。それは主イエス・キリストを通して自我を克服したことのあるしるしである。」(各時代の希望中巻 367)

2. 真のイスラエル

- a. 将来のイスラエルに関して約束されたことは何ですか（エレミヤ 33:16; ローマ 11:25-27）。

「神がユダヤ人の心も異邦人の心も同様に変える力を十分に持っておられて、キリストを信じるすべての者に、イスラエルに約束された祝福を授けることがおできになる。」（患難から栄光へ下巻 62）

- b. 生まれがユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、救いにいたる唯一の道は何ですか（使徒行伝 4:10-12）。

「人類は贖罪ではなく、文明の発達、すなわち、洗練と向上と更生とが必要であるという人もある。……カインの生涯は、どのような結末に至るかを示している。また、キリストを離れた人がどうなるかを示している。人類は、自分を再生させる力を持ち合わせない。それは、神に向かって向上するのではなく、サタンのほうへ墮落する傾向がある。キリストだけがわれわれの希望である。」（人類のあけぼの上巻 68.69）

- c. 真のイスラエルを特徴づけるものは何ですか（ローマ 2:28, 29）。この光のうちに見るとき、約束が実際に当てはまるのはだれですか（ローマ 9:6-8）。

「パリサイ人はアブラハムの子であることを主張し、神のみことばを所有していることを誇った。しかしそうした特典も、彼らを利己主義、悪意、利得への貪欲、卑劣な偽善から守らなかった。彼らは、自分たちが世界で最も偉大な宗教家であると思っていたが、彼らのいわゆる正統派的な信仰が、栄光の主を十字架につけさせたのであった。

同じ危険が今も存在している。多くの者は、ある神学上の教義に同意しているからというだけのことで、自分は当然クリスチャンだと思っている。だが彼らは、真理を実生活に持ちこまなかった。彼らは真理を信じていなければ、愛してもいなかった。したがって彼らは、真理のきよめを通して与えられる力と恩恵とを受けなかった。人は、真理に対する信仰を告白しても、もしその信仰によって、彼らが真実で、親切で、忍耐強く、寛大で、天来の心を持った者となるのでなければ、それは所有者にとってわざわざであり、また彼らの感化によって、それは世にとってもわざわざいとなる。」（各時代の希望中巻 16）

3. アブラハムの子孫

- a. アブラハムに、残りの世との関係に関して、どの約束が与えられましたか（創世記 22:18）。

「アブラハムは、非常に名誉ある召しを受けた。彼は、世界に対して、数世紀間にわたって神の真理の擁護者、また、保持者となる民族の父となり、その民族のなかから、地のすべての国々を祝福する約束のメシヤが来臨なさるのであった。」（人類のあけぼの上巻 143）

- b. この約束の中にある「子孫」という言葉は何を意味していましたか（ガラテヤ 3:16）。祝福を受け入れる者となるために、何が必要とされていますか（8, 9 節）。

「アブラハムに対してなされた約束は、キリストによって成就されることを、聖書は明らかにしている。キリストにある者はみな、『アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである』。すなわち、罪ののろいの取り去られた地の『朽ちず汚れず、しばむことのない資産を受け継ぐ』相続人である（ガラテヤ 3:29；ペテロ第一 1:4）。」（同上 179）

- c. ヨハネ 8:31-45 に記録されている会話を研究しなさい。そしてそこで言われている霊的な関係にあずかるために、どのような種類の品性が必要とされているかを述べなさい。

「パリサイ人は、自分たちはアブラハムの子であると宣言していた。この主張はアブラハムのわぎをすることによってのみ立証できるのだと、イエスは彼らにお告げになった。アブラハムの真の子ならば、アブラハムと同じように、神に服従する生活を送るであろう。彼らは、神から与えられた真理を語っておられるおかたを殺そうとはしないであろう。キリストに対して陰謀をくわだてているのだから、ラビたちは、アブラハムのわぎをしているとはいえなかった。アブラハムの系図による子孫であるということだけでは、何の価値もなかった。アブラハムと同じ精神を持ち、同じわぎをすることにあらわされる霊的關係がないならば、彼らは、アブラハムの子ではなかった。」（各時代の希望中巻 256）

4. 地を受け継ぐ

- a. 父祖たち自身、どのように地を受け継ぐ約束のうちに含まれていましたか（出エジプト記 6:8）。この約束が成就するためには、何が起こらなければなりませんか（ルカ 20:34-38）。

「神がその民に約束された嗣業は、この世のものではない。アブラハムは、地上で何も持たず、『遺産となるものは何一つ、一歩の幅の土地すらも、与えられなかった』（使徒行伝 7:5）。彼は、大きな財産を持っていたが彼はそれを、神の栄光と同胞の幸福のために用いた。しかし、彼は、この世を自分の故郷と思わなかった。主は永遠の所有として、カナンを国を与えることを約束して、偶像礼拝者の親族から離れることを彼に命じられた。しかし、彼も、彼の子も、孫も約束の地を受けなかった。アブラハムは、死者を埋葬する地がほしかったとき、カナン人から買わなければならなかった。約束の地の彼の唯一の所有は、マクペラのほら穴の岩にほられた墓だけであった。

しかし、神の言葉にまちがいはなかった。ユダヤ人のカナン占領も、この約束の最後の成就ではなかった。『約束は、アブラハムと彼の子孫とに対してなされたのである』（ガラテヤ 3:16）。アブラハム自身、嗣業相続にあずかるはずであった。神の約束の成就是、長く延びるように思われることであろう。『主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである』（ペテロ第二 3:8）。おくられているように見えても、定まった時が来れば、『それは必ず臨む。滞りはしない』（ハバクク書 2:3）。アブラハムと彼の子孫への賜物は、カナンの地だけでなく、地球全体を含むものであった。」（人類のあけぼの上巻 178, 179）

- b. 父祖たちがこれを理解していたことを、何が示していますか（ヘブル 11:13-16）。
- c. だれがアブラハムの真の子孫、ひいては約束の相続人だとみなされますか（ガラテヤ 3:27-29; マタイ 8:11, 12）。

「キリストは血筋というものになんら価値をお認めにならなかった。彼は霊的關係のほうが、あらゆる血縁關係にまさるものであるとお教えになった。……神のみ声に従うことによって、霊的にアブラハムと一致していることを示す者のみが、真の子孫とみなされるのである。」（キリストの実物教訓 244, 245）

5. 栄光に満ちた嗣業

- a. 約束が成就するとき、地はどのような状態になりますか（イザヤ 65:17-19）。

「聖書の中では、救われた者の嗣業が『ふるさと』と呼ばれている（ヘブル 11:14-16 参照）。そこでは天の大牧者イエスが、ご自分の群れを生ける水の源に連れて行ったださる。いのちの木は月ごとにその実を結び、その葉は万民のために用いられる。水晶のように透きとおった川が永遠に流れ、そのそばにはゆれ動く木々が、主に贖われた者たちのために備えられた道の上に影を投じている。広々とひろがった平野の果ては、美しい丘となって盛りあがり、神の山々が高くそびえ立っている。この平和な平原に、また生ける流れのほとりに、久しい年月の間旅人であり寄留者であった神の民が、そのすまいを見いだすのである。」（各時代の犬争闘下巻 463）

- b. 受け継がれた御国の霊的な一致を、聖書はどのように描写していますか（エレミヤ 23:3-6; エゼキエル 37:24-27）。

「調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。……最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる。」（同上 467）

- c. 地が新しくされるとき、神はご自分の住まいをどのようになさいますか（黙示録 21:1-3）。

個人的な復習問題

1. 神が約束なさるとき、なぜその成就是条件にかかっているのですか。
2. キリストを信じる信仰を告白するほかに、何が必要とされていますか。
3. 何が、人を本当のアブラハムの子としますか。
4. 地を受け継ぐという約束は、いつ成就しますか。
5. 新地に救われた人々の態度はどのようなものとなりますか。

不法の秘密

「不法の秘密の力が、すでに働いているのである。ただそれは、いま阻止している者が取り除かれる時までのことである。」(テサロニケ第二 2:7)

「使徒パウロは、テサロニケ人への第二の手紙のなかで、法王権の樹立をもたらす大背教のことを預言した。……早くも彼は誤りが教会に侵入し、法王権の発展に道を備えるのを見たのであった。」(各時代の斗争闘上巻 43)

推奨文献：各時代の斗争闘上巻 43-58

日曜日

10月25日

1. 群れにとっての危険

- a. イエスは教会が直面することになるどの危険を警告なさいましたか(マタイ 24:4, 5, 11)。後に何が発達することになっていましたか(使徒行伝 20:28-30; テサロニケ第二 2:1-12)。

「わずか数年のうちに教会の教師や指導者の立場にあった人々の多くが福音のために命を捨てるのであった。まもなく恐ろしいおおかみたちは侵入してきて、容赦なく群れのいのちを奪うのであった。しかし、これらのことはいずれも、希望の中心をキリストに置いている人々を失望させることはできなかった。」(患難から栄光へ下巻 228)

- b. 教会は、この危険について、何ができましたか(テモテ第二 3:13-15; ローマ 16:17, 18)。

「パウロは将来を展望して、教会には、外部と内部の両方から敵の攻撃が襲ってくるのを見、震えおののいた。彼は、厳粛で熱誠のこもった口調で、兄弟たちが目を覚まして彼らの神聖な義務を守るように命じた。」(患難から栄光へ下巻 80)

2. 迫害の兆候

- a. 不信のユダヤ人たちは、同国のクリスチャンたちに何をしましたか（テサロニケ第一 2:14-16; 使徒行伝 14:2）。迫害の結果、何が起こりましたか（使徒行伝 8:1, 4）。

「福音のメッセージを異邦人に伝える働きは、いまや力強く遂行されねばならなかった。そしてその結果、教会は魂の大収穫によって強められるのであった。この働きを指導する任務を受けた使徒たちは、疑いと偏見とねたみにさらされるであろう。長年のあいだユダヤ人の世界と異邦人の世界とをへだててきた『隔ての中垣』を打破することについて教えるならば、当然異端のそしりを招くであろう（エペソ 2:14）。」（患難から栄光へ上巻 173）

「もし真理を知っている人々がそれを実践するならば、人々がいるところで会うために手段を講じることであろう。キリスト教会の初期に、聖徒たちを広く散らし、エルサレムの外に出して世界中の多くの場所へ送り込まれたのは、神のみ摂理であった。キリストの弟子たちはエルサレムや近郊の都市にとどまっていなかった。かえって自国の境界を越えて、大きな旅路へと入って行き、神に連れ戻すために失われた人々を探したのであった。今日主はご自分の働きが多くの場所で進展するのを見たいと思っておられる。わたしたちは自分たちの働きをわずかな場所に制限してはならない。」（教会への証 6 巻 330）

- b. この迫害は、わたしたちが予期すべきものでしょうか（ヨハネ 15:20; テモテ第二 3:12）。迫害に直面し、人に信仰を失わせるようななどのようなことが起こりますか（マルコ 4:16, 17）。

- c. 迫害にどのように応じるべきですか（マタイ 5:10-12; ローマ 8:37-39）。

「〔マタイ 5:10-12 引用〕。イエスはここで〔ご自分の弟子たちに〕彼らのご自分のみ事業のために大きな苦難を経験するまさにその時こそ、彼らには喜び、彼らの苦難が自分たちにとって有益であることを認めるべき理由があることを示しておられる。それは彼らの愛情を世から引き離し、天に集中させる感化力をもっている。」（預言の霊 2 巻 211, 212）

3. ユダヤ主義の教師たち

- a. 迫害の恐れが、ある教会員たちを、どのように影響し続けましたか（使徒行伝 15:1, 2）。

「使徒たちは教役者や信徒といっしょに熱心に努力し、多くの人々をキリストに導いていたが、一方、ユダヤから来た『パリサイ派』のあるユダヤ人信徒たちは、一つの問題を持ち込んできた。それはまもなく教会内に、広範囲に及ぶ論争を引き起こし、異邦人の信徒たちを驚愕させるものとなった。これらユダヤ主義の教師たちは、救われるためには割礼を受けて、礼典律を完全に守らなければならないと、大きな確信をもって主張した。……

ユダヤ人の改宗者はたいてい、神の摂理によって道が開かれても、すぐに進んでいこうとしなかった。使徒たちが異邦人のあいだで働いたために、ユダヤ人の改宗者よりも異邦人の改宗者の数のほうがはるかに多かったことは確かである。もしユダヤ人の律法が命じる禁止事項や儀式を、教会員になる条件として異邦人に行わせることをしないでいると、これまでユダヤ人を他の国民と区別してきた国民的特異性が、ついには福音を信じた人びとのあいだから失われるのではないかと、ユダヤ人は恐れた。」（患難から栄光へ上巻 203, 204）

- b. これらの運動の背後にある精神は何でしたか（ガラテヤ 6:12-16）。このような状況の中で、真のクリスチャンは、どのような資質を表しますか（テモテ第二 1:7）。
- c. パウロは自分の手紙の中で、どのように異端に応じましたか（ローマ 2:25-29; コリント第一 7:18, 19; ガラテヤ 5:6）。

「パウロは自分自身と、彼のすべての能力を神への奉仕にささげていた。彼は福音の真理を直接に天からささげられており、その伝道生涯のあいだ、神の摂理ときわめて重大なつながりを保っていた。彼は異教徒のクリスチャンに課せられている不必要な義務について、神から教えられていた。こうしてユダヤ教の信者が、アンテオケの教会に割礼の問題を持ち込んだとき、パウロはそのような教えに関する聖霊の考えを知っていて、ユダヤ人の慣例や儀式から教会を解放する、堅実な断固たる立場をとった。」（同上 215）

4. 勇気と妥協

- a. 使徒パウロのように、わたしたちはどのような精神をもつべきですか（ガラテヤ 6:14; ローマ 1:14-17）。
- b. 偉大な使徒は、自分の兄弟たちによって、どのような妥協をするように説得されましたか。またそれによって、どのように彼が逮捕されることになりましたか（使徒行伝 21:17-24; 26-30）。

「兄弟たちは、パウロが勧告された行動をとって、彼についての偽りのうわさに対して明確に反論することを望んだ。彼らは、異邦人の信者と礼典律に関する前回の会議の決議が、なお有効であると彼に言明した。しかし、彼らの勧告は、その決議と一致していなかった。この指示は、神の霊によって与えられたものではなかった。それは、臆病の結果であった。エルサレムの指導者たちは、クリスチャンがもし礼典律を守らなければ、ユダヤ人の怒りを招き、自分たちを迫害にさらすことを知っていた。……もしキリストの信者たちが、サンヒドリンの前で、律法の違反者として罪に定められるならば、彼らはユダヤ教の背信者として、直ちに厳しい刑罰に会わなければならなかった。

福音を信じた多くのユダヤ人は、なお礼典律を尊重し、自ら進んで無分別な譲歩をなし、こうすることによって、同胞の信頼を得て、彼らの偏見を取り除き、キリストを世界のあがないの主として信じさせようと望んだ。パウロは、エルサレム教会の指導者たちが彼に対して偏見を持ちつづけるかぎり、彼らは常に彼の働きに対して反対することを悟った。……しかし、パウロは、彼らが要求したほどに譲歩する権利を神から授けられてはいなかった。

兄弟たちと調和したいというパウロの大きな願い、信仰の弱い者に対する彼の思いやり、キリストと共にいた使徒たち、特に主の兄弟ヤコブに対する彼の尊敬、また、できるだけ原則を曲げずにすべての人に対しては、すべての人のようになるという彼の決心などをみな考慮するときに、彼が、これまで歩んできた堅固で明確な道からやむを得ずそれとしても、大して驚くに当たらない。しかし、彼の和解の努力は、望んだ目的を達成するのではなくて、ただ危機の到来を促進し、彼の予告した苦難を早めるものであった。そして彼は、兄弟たちから引き離され、教会は、最も堅固な柱を失い、全地のクリスチャンを悲しませる結果になったのである。」（患難から栄光へ下巻 89, 90）

5. 秘密が進展する

- a. ローマの統治からのユダヤ人の反乱と西暦 70 年のエルサレムの滅亡の後、妥協したクリスチャンたちの間で、どのように焦点が変わりましたか（黙示録 2:2-4）。

「教会歴史の初期に、使徒パウロが預言した不法の秘密の力がその有害な働きを始めていた。そして、すでにペテロが信者たちに警告していたにせ教師たちが異説を勧めると、多くの者たちは誤った教理に誘惑された。」（患難から栄光へ下巻 292）

「この大背教の原因は、いったいなんであったであろうか。教会はどのようにして、福音の単純さから離れたのであろうか。それはキリスト教が、異教徒に受け入れられやすいようにと、多神教の習慣に順応したからであった。」（各時代の大争闘下巻 86）

- b. ローマ帝国全土にわたる一般的なユダヤ人への侮蔑が、どのように安息日遵守の衰退に寄与したかを話し合いなさい。

「最初の二、三世紀の間、すべてのキリスト者たちは真の安息日を守っていた。……しかしサタンは、彼の代理者たちを用いて非常に巧妙に働き、その目的の達成をはかった。人々の注目を日曜日にひくために、それはキリストの復活を記念する祝日とされた。……」

そしてサタンは、自分がそのようにして人々に安息日を誤解させておきながら、今度はそれを利用し、安息日はユダヤ人の制度だとしてそれを軽べつした。キリスト者たちが、日曜日を楽しみ祝祭日として祝う一方、サタンは彼らがユダヤ教に対する憎しみの表現として、安息日を断食の日、ゆううつな悲しみの日とするようにしむけた。」（各時代の大争闘上巻 47）

個人的な復習問題

1. 不法の秘密の進展の根となったのはどの精神ですか。
2. 迫害の脅威に対して、真に改心した人はどのように応じますか。
3. 初期クリスチャン教会において最初の教理的論争をめぐる問題を説明しなさい。
4. パウロがエルサレムにいたとき、パウロに与えられた助言は、何によって生じたものでしたか。なぜですか。
5. 不法の秘密は今日もなお、どのように教会に忍び込んでいますか。

第一安息日献金 伝道地のための文献

21 世紀に、インターネット、e-ブック、また他のメディアが、福音を伝える近代的な方法である一方では、なお独自に他の種類のメディアがとってかわることのできない融通のきく提示の方法があります。印刷された文書というのは、地の果て—電気のないところ—にまで福音が届く効果的な方法の一つです。この手段によって、良き知らせは旧共産圏、無神論やイスラム国家にまで入っており、一対一ベースで分かち合うことができます。主のしもべは次のように言っています、「聖書の真理を含んだ出版物が秋の木の葉のようにまき散らされるようにしなさい」（天国で 323）。「わたしたちの出版物は至る所へ行くべきである。それらが多くの言語で発行されるようにしなさい。第三天使のメッセージは、この方法や生ける教師を通して伝えられなければならない。この時代のための真理を信じるあなたは目覚めなさい。真理を理解する人々を助けてそれを宣布できるようにするために、可能な限りあらゆる手段を用いることが、今あなたの義務である」（教会への証 9 巻 62）。



「告げ示し（出版し）、ほめたたえて言え、『主はその民イスラエルの残りの者を救われた』と」（エレミヤ 31:7）。神の民、イスラエルの残りの者は、救いの良き知らせを出版すべきです。わたしたちには多くの国々で、福音伝道のための聖書や書籍またパンフレットがありますが、まだ世界中には、同じ特権をもっていない多大な群衆がいます。世界中の様々な地域への文書配布を支援することは、わたしたちの義務であり栄誉です。聖書は多くの言語や方言に翻訳されてきましたが、まだキリストへの道、各時代の斗争など重要な書物を手に入れられない人々は何百万といます。もし今日現代の真理を探している人々と安息日聖書教科を分かち合うとしたら、どうでしょう。

「まだ改革のメッセージが入っていない太平洋の島々やアフリカ諸国を考えてみてください。伝道の書 11:1 には、「あなたのパンを水の上に投げよ、多くの日の後、あなたはそれを得るからである」とあることを覚えていましょう。わたしたちは遅すぎる前に神のみ言葉を広めなければなりません。わたしたちはすぐに結果は見えないかもしれませんが、しかし、後の雨が満ちみちてもたらされるときの大収穫を目撃できるのはそれほど遠い先のことでありません。わたしたちは地ではなく、天に宝を蓄える賢明な管理者となりましょう。

すでに貢献してこられた世界中の兄弟、姉妹、友人がたに非常に感謝しています。しかしかつてなかったほど必要は大きくなっています。ですから、この働きに惜しまない献金をしようではありませんか！

世界総会出版支部

終わりの時代の安息日

「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」（エゼキエル 20:20）

「終末時代に、神のすべての制度が回復される。人間が安息日を変更したときにできた、律法の破れが回復される。」（国と指導者下巻 277, 278）

推奨文献：各時代の争闘下巻 151-172 「25 章 神の律法は不変」

日曜日

11月1日

1. 覚えているか

- a. 神がシナイで十誡を語り記される以前から安息日が守られていたことを、出エジプト記 20:8 のどの表現が示していますか。

「安息日は、新しい制度として取り入れられたものではなく、創造のときに制定されたものである。それは創造主のみわぎの記念としておぼえられ、守られるのである。」（人類のあけぼの上巻 358）

- b. 創造の第七日目に、神は何をなさいましたか（創世記 2:1, 2）。この日は何が特別でしたか（創世記 2:3）。

「安息日と同様に、週は、創造の時に創設されて、聖書の歴史を通じて維持され、われわれに伝えられた。神は世の終末に至るまで継続する週の見本として、最初の一週を設けられた。それは、他のすべての週と同様に、文字通りの七日間であった。神は、六日を創造の働きに用い、七日めに休み、この日を祝福して、人間のための休息の日として聖別された。」（同上 29）

「神は安息日に休息されたので『神はその第七日を祝福して、これを聖別された』一すなわちこの日を聖なるご用のためにとりわけられた（創世記 2:3）。神はこの日を休息の日としてアダムにお与えになった。それは創造のみわぎの記念で、神の力と愛のしるしとなった。」（各時代の希望上巻 360）

2. 創造の記念日

- a. 安息日はわたしたちに何を思い起こさせますか（出エジプト記 20:11; 詩篇 111:4）。

「安息日は、神を天地の創造者としてさし示すことによって、真の神とすべての偽りの神とを区別している。七日めを守る者はだれでも、その行為によって、彼らが主の礼拝者であることを表示するのである。このように、安息日は、この地上において神に仕える者があるかぎり、神に対する人間の忠誠のしるしである。」（人類のあけぼの上巻 358）

「神は、人々が安息日に、神の創造のみわざについて瞑想することを望まれた。自然は、彼らの知覚に訴え、生きた神、創造主、万物の最高の支配者の存在を宣言している。……地上をおおっている美は、神の愛のしるしである。われわれは、それを万古不易の山、壮大な樹木、開くつぼみ、優美な花に見ることができる。万物は、神について語っている。万物の創造主を指示している安息日は、自然という偉大な書物を開き、そして、そのなかに創造主の知恵と力と愛を探究するように命じる。」（同上 23, 24）

- b. もし神が万物を造られたのであれば、わたしたちはどの立場にいますか（詩篇 100:3; エペソ 2:10）。

- c. 安息日の属する創造主はどなたですか（ヨハネ 1:3; マルコ 2:27, 28）。

「安息日は人のためにつくられたのだから、それは主の日である。それはキリストのものである。なぜなら『すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった』からである（ヨハネ 1:3）。キリストは万物をおつくりになったのだから、キリストが安息日をつくられた。キリストによって、安息日は創造のみわざの記念として聖別された。安息日は、キリストを創造主またきよめのおかたとしてさし示す。安息日は、天地の万物をおつくりになって、すべてのものを保っておられるキリストが、教会の首長であられるということ、またキリストの力によってわれわれは神と和解させられるということを宣言している。」（各時代の希望上巻 372, 373）

「第四条は、十誡の中で、立法者の名と称号が二つともしるされている唯一の戒めである。それは律法がだれの権威によって授けられたかを示している唯一の戒めである。このように第四条は、律法の確実性と拘束力の証拠としてそれに押された神の印を含んでいる。」（人類のあけぼの上巻 358）

3. 聖化のしるし

- a. 罪が世に入ってから、安息日には、どの目的が追加されましたか（エゼキエル 20:12）。

「安息日は、われわれを聖としてくださるキリストの力のしるしである。そしてそれは、キリストが聖とされるすべての人に与えられているのである。キリストのきよめの力のしるしとして、安息日は、キリストを通して神のイスラエルの一部となるすべての人に与えられているのである。」（各時代の希望上巻 373）

- b. イスラエルの子らにとって、特に安息日は何について思い起こさせるものでしたか（申命記 5:15）。

- c. 罪に対する「恨み」や罪からの救出という主題は、どのように安息日の意味に反映されていますか（創世記 3:15; 出エジプト記 31:13）。

「人間を神の律法の原則に調和させることによって神と和解させるのは、改心と清めの働きである。……『肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである』（ローマ 8:7）。しかし、神は、人間が神と和解することができるように、『そのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。』人間は、キリストの功績によって、創造主との調和を回復することができるのである。彼の心は、神の恵みによって新しくされなければならない。彼は、上からの新しい生命を受けなければならない。この変化が新生であって、これがないと『神の国を見ることはできない』とイエスは言われるのである。」（各時代の争闘下巻 194, 195）

「創造主である神のしるしとして世に与えられた安息日はまたきよめ主としてこのお方のしるしである。万物を創造された力は、魂のうちにこのお方自身のかたちを再創造する力である。安息日をきよく守る人々にとって、それは聖化のしるしである。真の聖化は神と調和することであり、品性においてこのお方と一つであることである。このお方のご品性の写しであるこれらの諸原則への従順を通してそれを受けるのである。そして安息日は従順のしるしである。心から第四条に従う人は、律法全体に従う。彼は従順を通して聖化される。」（教会への証 6 巻 350）

「主がこの世における自分の嗣業として大切にす人はこのお方の支配下にあり、神の特別な所有であることを示す神のしるし、印を受ける。キリストの義が彼らの前に行き、主の栄光が彼らのしんがりとなる。主はご自分の印を帯びる人類一人ひとりを保護される。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 969）

4. 真の安息日遵守の経験

- a. 地上歴史のこの最後の時代において、真の安息日遵守には、何が含まれていますか (マタイ 11:28-30; エペソ 4:22-24)。

「だれでもみな、神のみこころを知るために、個人的な経験をする必要がある。われわれは、神が心に語られるのを個人的にきかねばならない。ほかの声がみな沈黙して、静けさのうちに神の前に待つとき、魂の静寂は神のみ声を一層明らかにする。神は、『静まって、わたしこそ神であることを知れ』とわれわれに命じておられる (詩篇 46:10)。ここにだけ真の休息がみいだされる。……あわただしい群衆の中にあつて、人生の激しい活動の緊張のうちにあつて、このように活気づけられた魂は、光と平和の雰囲気にとりかこまれる。」(各時代の希望中巻 101, 102)

- b. 新しくされる工程の結果は何ですか (コリント第二 5:17)。

- c. 安息日を真にきよく守るためには、わたしたちは靈的にどの状態になければなりませんか (レビ記 20:26; エペソ 1:3, 4)。

- d. わたしたちは日ごとに何を真剣に求めるべきですか (詩篇 51:10)。

「人の心が、まず神を求め出したその瞬間を、神は、ご存じである。どのようにためらいがちの祈りであっても、どのようなひそかな涙であっても、どのようなか弱い切なる心の願いであっても、必ず神の霊がそれを迎えに出られるのである。」(キリストの実物教訓 186)

「毎朝、神におのれをささげ、これを最初の務として、次のように祈りなさい。『主よ、しもべを全くあなたのものとしてお受け入れください。私のすべての計画をあなたのみ前におきます。どうか、しもべをきょうもご用のためにお用いください。どうか、私と共にいましたもうて、すべてのことをあなたにあつてなさせてください』と。これは毎日のことである。毎朝、その日一日、神に献身して、すべての計画をこのお方にお任せし、摂理のままに実行するなり、中止するなりするのである。こうして、日ごとに生涯を神のみ手にゆだねるとき、次第にあなたの生涯がキリストの生涯に似てくるのである。」(キリストへの道 94)

5. 楽しみと喜び

- a. もしわたしたちが安息日の契約を受け入れ、それが意図する働きをわたしたちのうちになすとき、それはどのようにになりますか（イザヤ 58:13, 14）。「わが聖日」という言葉は、何を意味しますか（マタイ 12:8）。
- b. 安息日はそれを真に受け入れるすべての人に、どの祝福をもたらしますか（マタイ 11:28）。

「安息日をキリストの創造とあがないの力のしるしとして受け入れるすべての人にとって、この日は楽しみとなる。彼らはその中にキリストをみいだし、キリストのうちにあってよろこぶ。」（各時代の希望上巻 373）

「全天は、安息日に第四条の主張を認め、守っている人々を眺め、見守っているものとしてわたしに示された。御使たちはこの神聖な制度に対する彼らの関心や高い敬意に注目している。厳格な献身的な思いの態度によって心のうちに主なる神を聖別し、自分の能力の最善を尽くして安息日を守ることによって聖なる時間を活用しようと努め、安息日を喜びの日と呼ぶことによって神に誉れを帰そうとする人々—これらの人々を天使たちは特別に光と健康をもって祝福する。そして特別な力が彼らに与えられるのである。」（教会への証 2 巻 704, 705）

- c. もしわたしたちが忠実であることを見られるならば、新しくされた地上の王国で安息日ごとに何をするようになりますか（イザヤ 66:23）。

個人的な復習問題

1. なぜ神は、「覚えよ」と言われたのか、その理由を説明しなさい。
2. 安息日は、どのような事柄をわたしたちに思い起こさせますか。
3. クリスチャン経験において、安息日は他にどのような意味をもっていますか。
4. わたしたちは、どのようにして安息日の休息を真に経験することができますか。
5. わたしたちは主の日の祝福から、どのように恩恵を受けていますか。

調査審判

「ある人の罪は（あらかじめ）明白であって（にされて）、すぐ裁判にかけられるが、ほかの人の罪は、あとになってわかって来る。」（テモテ第一 5:24）

「天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。」（われらの主よ、来たりませ 254）

推奨文献：各時代の大争闘下巻 210-226

日曜日

11月8日

1. あなたの判決が待たれている

- a. だれの判決が待たれていますか（コリント第二 5:10）。だれの裁判から始まりますか（ペテロ第一 4:17）。

「審判において、記録の書が開かれるときに、イエスを信じたすべての人の生涯が神の前で調べられる。われわれの助け主であられるイエスは、この地上に最初に生存した人々から始めて、各時代の人々のためにとりなし、現在生きている人々で終わられる。すべての名があげられ、すべての人の事情が詳しく調査される。」（各時代の大争闘下巻 215）

- b. ほとんどの人はいつ裁かれますか（ヘブル 9:27）。なぜですか。

- c. 審判はどの証拠に基づいていますか（黙示録 20:11, 12）。書物には何が記されていますか（エレミヤ 2:22; マラキ 3:16; ネヘミヤ 13:14）。

2. 基準と仲保者

- a. わたしたちはどの基準によって裁かれますか（ヤコブ 2:10-12）。この基準の特徴は何ですか。またそれは何を要求しますか（詩篇 19:7; マタイ 5:48）。

「神の律法が、審判の時に人々の品性と生活を吟味する基準である。」（各時代の大争闘下巻 214）

「キリストはご自分の教えの中で、シナイ山で語られた律法の諸原則がどれほど遠大に及ぶかを示された。このお方は永遠に偉大な義の基準としてあり続ける諸原則をもつこの律法を実際に生きて適用された。裁き主が座に着き、数々の書物が開かれる大いなる日に、みなこの基準によって裁かれるのである。」（セレクト・メッセージ 1 巻 211）

- b. 不義に対する刑罰は何ですか（ローマ 6:23）。悪い記録を持っている人に、何か希望はありますか（ヨハネ第一 2:1, 2）。

「汚れのない神のみ子の死が、『罪の支払う報酬は死である』ことと、神の律法を犯せばそれに相当する報いがあることとの、証拠である。罪のないキリストが、人のために罪となられた。罪を負い、天父のみ顔をかくされて見ることができず、ついに、キリストの心臓は破裂し、その生命は砕かれたのである。こうした犠牲は、すべて、罪人が贖われるために払われたのである。他のどんな方法によっても、人は罪の刑罰から救われることはできない。」（各時代の争闘下巻 289）

- c. わたしたちは、どのようにあがないの供え物を受けるべきですか（ローマ 3:25; ヨハネ第一 1:9）。

「神のみ言葉には、悔い改めとけんそんの実例があげられているが、そこには罪の言いわけをしたり、自己を正しとするようなことの少しもない、真心からの告白の精神が見られる。パウロは、自分を弁護することなく、自分の罪をその恐ろしいままに描き、罪をいくらかでも軽くしようなどとは考えなかった。……

真に悔い改め、けんそんになった心は神の愛のいくぶんかを悟り、カルバリーの十字架の犠牲を心から感謝する。そして子供がやさしい父親に告白するように、ほんとうに悔い改めた者は神の前に自分の罪をみなもちきたる。そしてみ言葉には『もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる』（ヨハネ第一 1:9）とされている。」（キリストへの道 51, 52）

3. さばきの時

- a. 真に仲保者を受け入れた人々に何が起こりますか (ヨハネ 11:25; ヨハネ 5:24-29)。

「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法になつたものとなつたので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。」(各時代の斗争闘下巻 215.216)

- b. イエスが戻られるとき、このお方は何を携えてこられますか。またそれで何をされますか (黙示録 22:12; テモテ第二 4:7, 8)。

- c. キリストが忠実な者を報いられるためには、まず何が起らなければなりません (テモテ第一 5:24; ペテロ第一 4:17; ルカ 20:35, 36)。

「最後の報酬が与えられる前に、だれが義人の嗣業にあずかるにふさわしいかが決定されなければならない。この決定はキリストが天の雲に乗って再臨なさる以前に行なわれなければならない。キリストがこられるときには、報いを携えてきて、『それぞれのしわざに応じて報い』られるからである (黙示録 22:12)。とすると、主の来臨の前にすべての人のわざがどんなものであるかがさばかれ、キリストの弟子の一人一人はその行為にしたがって報いが与えられるのである。

調査審判が天の法廷で行なわれるのは、人がまだ地上に住んでいるときにおいてである。キリストの弟子であることを表明するすべての者の生活が、神の前で調べられる。すべての者が天の書物の記録に従って吟味され、その行為によって一人一人の運命が永遠に決定される。」(キリストの実物教訓 290)

「永遠のために準備する恵みの期間は、もうこれから先にはない。わたしたちがキリストの義の衣を着なければならぬ時は、この世においてである。主の戒めを守る者のためにキリストがお備えくださった住居を継ぐために品性を形成する機会はまだこれだけである。」(同上 298)

4. 罪の除去

- a. 復活の時に自分の報いを受ける義人たちの罪は、どうなっていなければなりませんか（ミカ 7:19; イザヤ 43:25）。

「調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。しかし、使徒ペテロは、はっきりと、信者の罪は、『主のみ前から慰め〔原文では refreshing（活気づけ、回復の意）〕の 때가』くるときにぬぐい去られる。そして、『キリストなるイエスを、神がつかわして下さる』と言っている（使徒行伝 3:19, 20）。調査審判が終わると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行ないにしたがってお与えになるのである。」（各時代の大争闘下巻 218）

- b. 不義なしもべのたとえが（マタイ 18:23-35）、どのように許しと除去は異なることを示しているか説明しなさい。わたしたちは今日忠実であるかもしれませんが、どの現実をいつも考えて見張っているべきですか（エゼキエル 33:13-16）。

- c. 命の書に記された不忠実な人の名前はどのようにになりますか（出エジプト記 32:32, 33）。どのようにしてまずそこに名前が記されますか。まただれの名前が残りますか（ピリピ 4:3; 黙示録 3:5）。

「われわれは、今、大いなる贖罪の日に生存している。型としての儀式においては、大祭司がイスラエルのために贖罪をなしている間、すべての者は、主の前に罪を悔い改め、心を低くすることによって、身を悩まさなければならなかった。もしそうしなければ、彼らは、民の中から絶たれるのであった。それと同様に、自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさなければならない。われわれは、心を深く忠実に探らなければならない。……すべての国民が神の前で審判を受けるのであるが、しかし神は、あたかもこの地上にその人一人しかいないかのように、厳密に一人一人を審査されるのである。すべての者が調べられねばならない。（同上 224）

5. 吟味と報い

- a. 罪が除去されるためには、礼服をつけていなかった人のたとえの中で描写されていたように、まず何が起らなければなりませんか（マタイ 22:9-14）。礼服は何を象徴していますか（黙示録 19:8; ペリピ 3:9）。

「王が婚宴の客を吟味したことは、審判のみわざをあらわしている。福音の婚宴に集まる客は神に仕えることを表明する者、その名がいのちの書に書かれている者である。……

たとえの中の礼服は、キリストの真の弟子が持つ清くてしみのない品性をあらわしている。……主を自分の救い主として受け入れるすべての者に信仰を通して与えられるのは、キリストの義であり、キリストご自身の汚れのないご品性である。」（キリストの実物教訓 289, 290）

- b. キリストは、今悔い改めた罪人一人びとりのために、どの働きをしておられますか。また働きが終わると、どの宣告がなされますか（ヘブル 2:17; 黙示録 22:11, 12; ダニエル 12:1）。
- c. 審判には、まだ生きている間に裁かれる最後の世代も含まれているため、イエスはわたしたちに何を警告しておられますか（マルコ 13:33）。わたしたちにはどの保証がありますか（ヘブル 4:14-16; 13:20, 21）。

「審判は今、天の聖所において進行中である。……間もなく—その時がいつかはだれも知らないが—生きている人々の番になる。」（各時代の犬争闘下巻 224）

個人的な復習問題

1. なぜ今生きているさばきの時は、それほど厳粛な時なのですか。
2. どのようにして「有罪ではない」という判決を受けることを確かめられますか。
3. なぜ信徒だと公言する人々の裁きは、キリストの再臨前になくはならないのですか。
4. ゆるしと罪の除去の区別は何ですか。
5. 生きている間に裁かれることになるキリストの真の従者は、どの体験を持たなければなりませんか。

地の最後の警告

「これは、わたしたちの救主である神のみまえに良いことであり、また、みこころにかなうことである。

神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。」(テモテ第一 2:3, 4)

「1840 年から 44 年に至る再臨運動は、神の力の輝かしいあらわれであった。第一天使のメッセージは、世界の各伝道地に伝えられた。そしてある国々においては、十六世紀の宗教改革以来どの国にもなかったような大いなる宗教的関心が引き起こされた。しかし、第三天使の最後の警告下における大運動は、これをはるかに超えるものとなるのである。」(各時代の大争闘下巻 381)

推奨文献：各時代の大争闘下巻 371-383

日曜日

11 月 15 日

1. すべての人が知らなければならない

a. イエスはご自分の弟子たちにどの重要な任務をお与えになりましたか(使徒行伝 1:8)。

「昇天される前に、キリストは弟子たちに任務をお与えになった。彼らは永遠のいのちの宝を世に伝えるという、主のご遺言の執行者にならねばならないと、主はお命じになったのである。……

彼らは人々がやってくるまで待つのではなく、メッセージを携えて人々のところに行かなければならなかった。」(患難から栄光へ上巻 21.22)

b. 世の終わりの前に、何が起こらなければなりますか(マタイ 24:14)。

「主イエス・キリストの再臨を待ち望むばかりでなく、それを早めることが、すべてのクリスチャンの特権である(ペテロ第二 3:12 文語訳参照)。キリストの名をとえるすべての者が、神のみ栄えのために実を結ぶなら、福音の種は、どんなにすみやかに、全世界にまかれることであろう。世界の最後の大収穫は、急速に熟すであろう。そして、この尊い実を集めるために、キリストはおいでになるのである。」(キリストの実物教訓 47)

2. 破滅の預言

- a. なぜキリストの来臨は遅れているのですか。またわたしたちが知っているように、地のために何が蓄えられていますか（ペテロ第二 3:7-10）。
- b. この地上歴史のドラマの最終場面における破滅の預言を述べなさい（イザヤ 13:6-9; 34:1-5; 黙示録 6:14-17; 11:18）。

「神は、悪人が栄え、悪人が神に対する敵意を表わすことをお許しになる。それは、彼らの罪惡の升目が満ちたとき、彼らが全く滅ぼされることが神の正義とあわれみによるものであることをすべての者が知るためである。神の報復の日が迫っている。そのときには、神の律法を破り神の民を圧迫した者がみな、その行為に対する正当な報いを受ける。そのときには、神に忠実に仕える者に対して行なわれたすべての残酷な、また不正な行為が、キリストご自身に対してなされたかのように罰せられる。」（各時代の争闘上巻 42）

- c. これはどのようにノアの時代の洪水と類似していますか（創世記 6:13, 17; 7:23; マタイ 24:37-41）。

「終末時代には、快樂と金銭を求めて人々は現世の利益追求にその心を奪われると聖書は言明している。……

人々はあたかも神も、天国も、来世もないかのように、利益と自己中心的放縱な生活を追い求めている。ノアのときに、悪を行なっている人々の目をさまし、悔い改めをうながすために、洪水の警告が発せられた。同様にキリストの切迫した来臨のメッセージは、世俗のことに心を奪われているものの覚醒（かくせい）をうながすために計画された。それは彼らの目をさまして永遠の實在を意識させ、彼らが主の宴会への招待に心を留めるために与えられたのである。」（キリストの実物教訓 208）

「神は、洪水が来る前に、ノアをつかわして世界に警告を発し、人々を悔い改めさせて、切迫している破滅から彼らをのがれさせようとした。キリスト再臨の時が近づくにつれて、主は、主のしもべたちを世界につかわして警告を発し、その大事件の準備をするように促される。群衆は、神の律法に逆らった生活をしてきた。そこで神は、彼らをあわれんで、清い戒めに従うように呼びかけられる。神に対して悔い改め、キリストを信じて、罪を捨てる者はみな許しが与えられる。」（人類のあけぼの上巻 102）

3. 七つの最後の災い

- a. 黙示録は神の裁きが実際に地上に行われることを、どのように描写していますか（黙示録 15:7; 16:1-21）。

「わたしは神の怒りが非常に恐るべきものであるを見た。そして、神が怒ってみ手をのばすか、またはあげるかなさるならば、世界の住民はあとかたもなくなってしまう。あるいは、彼らは不治のでき物に悩まされ、恐ろしい災害に苦しむ、そして彼らは救われることができずに災害に滅ぼされるのである。……その時ほど、わたしは、聖書が獣とその像とを拝し額や手に刻印を受ける神を信じないすべての者の上にくだると宣言している災害を逃れるために、神のみ言葉を忠実に探ることの重要性を感じたことはなかった。」（初代文集 139, 140）

「わたしたち自身の取る一連の行動が、生ける神の印を受けるか、もしくは破壊の武器によって切り倒されるかのいずれかを定める。すでに神の怒りの数滴が地に降っている。しかし、七つの最後の災いがこのお方の怒りのさかずきにまぜものなしに注がれるとき、そのときは悔い改めて避け所を見出すのには永遠に遅すぎるのである。その時に贖罪の血が罪のしみを洗い去ることはない。」（教会への証 5 巻 212）

- b. 生き残った人々を滅ぼす働きが終わるときの光景を描写しなさい（黙示録 19:17-19）。

「わたしの注意はふたたび地上に向けられた。……聖徒たちが神のみ声によって救い出されたあと、悪人の群れは怒りをお互い同志に向け合った。地は一面に血の洪水に見え、見渡すかぎり死体ころがっていた。

地上は荒れはてて荒野のように見えた。地震で倒れた都市や村々の廃墟がうず高くなっていた。山々がうつり去った跡には、大きな穴が口を開いていた。海からうちよせられたり、地が裂けてころがり出たごつごつの岩石が、あちらにもこちらにもころがっていた。大きな木が根こそぎになって、地面に吹き倒されていた。」（初代文集 466, 467）

- c. 地の破壊の頂点において、何が最後のできごとですか（マラキ 4:1-3; ペテロ第二 3:10）。

4. 三重のメッセージ

- a. 黙示録 14 章の第一天使と第二天使によって、さばきと霊的バビロンの墮落が、どのように述べられていますか（黙示録 14:6-8）。

「この預言によると、さばきとそれに付随した警告のメッセージのあとに、天の雲にのって人の子が来られることがのべられている。さばきのメッセージの宣布は、キリストの再臨が近いことを知らせている。そしてこの宣布は永遠の福音と呼ばれている。このようにしてキリスト再臨のことを説教して、その切迫を告げることが福音のメッセージの本質的部分であることが示されている。」（キリストの実物教訓 207）

- b. 第三天使は、どのように七つの最後の災いの前に最後の警告を提示しますか（黙示録 14:9-12）。

「これまで人類に与えられたことのない恐ろしい威嚇の言葉が、第三天使のメッセージの中に含まれている。あわれみを混じえない神の怒りをひき起こすものは、恐ろしい罪に違いない。この重大なことについて、人々は、無知のままであってはならない。この罪に対する警告は、神の罰が下る前に世界に伝えられなければならない。それはすべての者が、罰を受ける理由を知り、それを逃れる機会が与えられるためである。」（各時代の斗争闘下巻 171）

- c. 地の民に永遠の福音を「宣べ伝え」るこれらの「御使たち」（使命者たち）によって、だれが象徴されていますか（マルコ 16:15）。

「黙示録 14 章の三天使は、神のメッセージの光を受け入れ、このお方の代理人として地の縦横をめぐる警告を鳴り響かせるために出て行く民を表している。キリストはご自分に従う者たちに次のように宣言された、『あなたがたは、世の光である』（マタイ 5:14）。イエスを受け入れるすべての魂に、カルバリーの十字架は次のように語る、『魂の価値を見よ』。『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ』（マルコ 16:15）。この働きを妨害するものは何も許してはならない。これこそ時間に迫られた重大な働きなのである。これははるか永遠にまで及ぶ。イエスが人の魂の贖いのために払われた犠牲に明らかにされた魂への愛が、このお方に従うすべての者を動かす。』（教会への証 5 巻 455, 456）

5. 最後の召し

- a. 災いの直前に、まだ残りの民と一つになっていない神の忠実な者たちに、どのような特別な召しが繰り返されますか（黙示録 18:1-5）。

「バビロンを構成する諸教会は、靈的暗黒と神からの離反に陥っているにもかかわらず、その中にはまだ、真のキリスト者が数多くいる。……

黙示録 18 章は、教会が、黙示録 14:6-12 の三重のメッセージを拒否した結果、第二天使のメッセージが預言した状態に完全に陥り、そして、まだバビロンにいる神の民が、その中から出るようにと求められる時を示している。これは、世界に発せられる最後のメッセージである。そしてそれは、その働きを成し遂げる。『真理を信じないで不義を喜んでいた』人々は、偽りを信じ、迷わす力に陥るままにされる（テサロニケ第二 2:12）。そのとき真理の光は、それを受けようと心を開くすべての人の上に輝き、バビロンに残っている主の子供たちはみな……招きの声に耳を傾けるのである（黙示録 18:4）。」（各時代の大争闘下巻 92, 93）

- b. 地が「彼の栄光によって明るくされ」るために、天使（使命者）は、どの特質を表さなければなりませんか（イザヤ 52:7, 8; マタイ 5:16; コロサイ 1:27）。
- c. これらの現実を視野に入れて使徒は、どの行動計画をわたしたちに提示していますか（テサロニケ第一 5:4-6）。

個人的な復習問題

1. 主がわたしたちの手に任された緊急な任務は何ですか。
2. 今日、地の状態と運命は、どのようにノアの時と類似していますか。
3. 神はこの現在の世界を、どのように終わりに至らせるか述べなさい。
4. 地の完全な破滅の前に、どの警告が与えられなければなりませんか。
5. わたしたちは目前に迫っている時に、たしかに神の側にいることをどのように確信することができますか。

神の僕たちが印される

「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない」（黙示録 7:3）

「サタンは今この印する時に、神の民の思いを、現代の印する真理からそらしておき、彼らが揺れ動くようにさせようとあらゆる策略を用いている。わたしは神がご自分の民を悩みの時に保護するために上に覆いをかけておられるのを見た。そして真理の側にいることを決心し、心の清いすべての魂は、全能なる神の覆いをかけられるのである。」（ビュー・アンド・ハルド（現代の真理）1849 年 8 月 1 日）

推奨文献：教会への証 5 巻 207-216

日曜日

11 月 22 日

1. 逃れの町

- a. 地の破滅の前に、神はご自分の民に、どのような招待をしておられますか（イザヤ 26:20, 21）。
- b. この動揺した時代に、どの約束が慰めとなりますか（詩篇 46:1-3; 91:1-10）。

「悩みの時は、キリストのような品性があらわれるための厳しい試練である。それは神の民がサタンとその誘惑を拒絶するよう意図されている。最後の争闘は、彼らにサタンをその真の品性のうちに、すなわち残酷な暴君として表し、他ではできないこと彼らのためになす。すなわち、彼らの愛情からサタンが完全に抜き去られるのである。」（ビュー・アンド・ハルド 1884 年 8 月 12 日）

「〔神の民の〕信仰は、祈りが直ちに答えられないからと言って、なくなってしまう。激しい不安、恐怖、苦悩に苦しみながらも、彼らは祈り求めることをやめない。彼らは、ヤコブが天使をつかまえたように、神の力を捕える。そして、『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』と彼らは心の中で叫ぶのである。」（各時代の斗争闘下巻 393）

2. 印されるか、殺されるか

- a. だれが滅ぼされますか。また、だれにエゼキエルの幻の中の隠れ家が与えられますか (エゼキエル 9:3-6, 9, 10)。
- b. 黙示録の中でエゼキエルの幻の中の墨つぼをもった人に似た保護天使の働きが、どのように引用されていますか (黙示録 7:1-3)。
- c. エステルの時代のユダヤ人たちの経験は、どのように終わりの時代の神の民の経験を例証していますか (エステル 3:8, 9; 9:1-3)。

「この神の僕たちを印する働きは、幻の中でエゼキエルに示されたものと同じである。」(牧師への証 445)

「エステルの時代に神の民を訪れた苦しい経験は、ただその時代だけのものではなかった。……

今日地上に住んでいる者の中に、こうした言葉が成就するのを見るのである。各時代において、人々に真の教会を迫害させた同じ精神が、将来も、神に忠誠をつくす者に対して同様の行動を取らせるに至るのである。……

最後に神の残りの民に対して出される布告は、ユダヤ人に対してアハシュエロスが発したものと非常によく似ている。今日、真の教会の敵は、安息日の戒めを守る小さな群れを、門に座しているモルデカイのように思っている。神の民が神の律法を敬うことは、主を恐れることを放棄して神の安息日をふみにじっている者に対して、間断なき譴責である。

サタンは一般の習慣や伝統を受け入れない、少数の者に対して怒りを発する。地位の高い人々や有名人は、不法者や悪人に加担して、神の民に対して策略を練る。富を持った人、特殊の才能の持ち主、教育のある人などが一つになって彼らを軽べつする。迫害を加える支配者たち、牧師や教会員たちが彼らを滅ぼそうと陰謀を企てる。この人々は声と筆、誇張と脅迫と嘲笑などによって、彼らの信仰をくつがえそうとする。人々は偽りの申し立てと、怒りを含んだ訴えによって民衆の怒りをかき立てようとする。聖書的安息日の擁護者に対して、『はこう言っている』というのできないので、彼らは圧制的法令に訴えて、自分たちに欠けているものを補う。立法者たちは民衆の人気と支持を得るために、日曜休業令に屈服する。……真理と誤りの間の最後の大争闘は、この論点において戦われるのである。そしてわれわれは、その結果について何の疑惑ももたないのである。エステルとモルデカイの時代におけると同様に、今日においても主は、神の真理と神の民とを擁護されるのである。」(国と指導者下巻 208, 209)

3. 品性の精錬

- a. 印のために準備している人々の中に、どのような種類の品性が発達しますか（黙示録 14:1, 5）。御父の名をもつということには、何が示唆されていますか（マタイ 6:9; ペテロ第一 3:15）。

「今は準備のための時である。神の印は、不純な男女の額に押されることは決してない。それは野心的で世を愛する男女の額に押されることは決してない。偽りの舌と欺きの心を持つ男女の額に押されることは決してないのである。印を受ける者はみな神の御前にしみのない者一天への候補者—となっていなければならない。」（教会への証 5 巻 216）

「それは目に見える印やしるしではない。そうではなく、真理に知的に靈的に定着し、〔神の民が〕動かされないようになることである。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1161）

「わたしたちはキリストのうちにある男女の高さにまで到達するように全力を尽くして奮闘しているであろうか。このお方の満ちみちた高さを求め、つねにわたしたちの前にある目標—このお方のご品性の完全さ—を目指して前進しているであろうか。主の民がこの目標に到達するとき、彼らはその額に印を受けるのである。」（同上 6 巻 1118）

「わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで神のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。」（初代文集 149）

- b. 主はわたしたちのうちに、どのようにこの聖化の働きを実行していただきますか（ヘブル 7:25; 13:20, 21; ピリピ 1:6; 2:12, 13）。

「イエスが至聖所におられる時は、ほとんど終了し、時は、あとわずかしか続き得ないことをわたしは見た。われわれの空いた時は、聖書の研究のために費やさなければならない。この聖書が、最後の日にわれわれを審くのである。……

人の子の来られることを常に考えて生活し、すべての行動をとろう。印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選ぴとを確かなものにする時である。」（初代文集 130）

「14 万 4 千人の中に入るために、神がわたしたちに与えて下さった力を尽くして奮闘しようではないか。」（ビュー・アンド・ヘルド 1905 年 3 月 9 日）

4. 嘆き悲しむ

a. 終わりの時代の神の民の働きは何ですか (イザヤ 58:12)。

「終末時代に、神のすべての制度が回復される。人間が安息日を変更したときにできた、律法の破れが回復される。神の残りの民は改革者として世の前に立ち、神の律法がすべての永続的改革の基礎であって、第四条の安息日は 創造の記念であり、常に神の力を思い起こさせるものであることを示さなければならない。」(国と指導者下巻 277, 278)

b. 嘆き悲しむとは、どういう意味ですか (エゼキエル 9:4)。

「忠実な者たちが嘆き悲しんでいる憎むべきことが、有限な目に認められるすべてである。しかし、はるかに最悪な罪、すなわちきよく聖なる神のねたみを引き起こす罪はあらわにされなかった。」(教会への証 5 巻 211)

「教会の危険と低下が最大の時に、光のうちに立っている小さい群れは、地に行われている憎むべきことを嘆き悲しんでいる。しかし、それ以上に、彼らの祈りは特に教会のために上るのである。なぜなら、教会員が世の方法にならっているからである。……

彼らは大いなる光を持ってきた人々のまさにその家の中で、宗教がさげすまれているのを見て、神の御前に嘆く。彼らは、教会の中で誇り、悪意、利己心、そしてほとんどあらゆる種類の欺瞞があるため、嘆き、自分たちの魂を悩ませるのである。」(同上 209, 210)。

c. どこでさばきは始まりますか。そして神の民だと公言する人々にとって、このことは何を意味しますか (エゼキエル 9:6)。

「しかし、罪と義のかけ離れた対比を認めず、神の勧告のうちに立つて印を受ける人々が感じるように感じないすべての人の全般的な殺戮(さつりく)は、五人の滅ぼす武器を持った人への命令の中で次のように述べられている。〔エゼキエル 9:5, 6 引用〕。」(同上 3 巻 267)

5. 救出

- a. 神はこの時ついに、どのようにご自分の民を救出されますか（ルカ 18:7; ダニエル 12:1, 2）。恩恵期間が閉じる前の教会のきよめについて話し合いなさい。

「教会の最大の危機の時に、忠実な残りの民によって、熱烈な祈りが教会のために捧げられ、違反者たちの罪が最高に達したまさにその時に、神は聞いて答えてくださるのである。」（教会への証 5 巻 524）

「教会は今にも倒れるように見えるかもしれないが倒れない。それはシオンにいる罪人がふるい落とされるまで—もみがらが貴重な麦から分離するまで—とどまるのである。」（エレミヤ・メッセージ 2 巻 380）

「すべての魂にテストが訪れるのは遠い先のことではない。獣の刻印がわたしたちの上に迫るであろう。……この時に、教会の中でかすから金が分離される。……わたしたちが豊かな麦畑だとばかり思っていた場所からさえも、風が吹いてもみぎらは雲のように吹き払われる。聖所の飾りだと思われていたが、キリストの義に覆われていなかった者もみな、自分自身の裸の恥を表すようになる。」（教会への証 5 巻 81）

- b. だれが災いに耐えて、イエスの再臨の時に移されるようになりますか（テサロニケ第一 4:16, 17; 黙示録 14:4）。

「この歌は、14 万 4 千以外のものは、だれも学ぶことができない。……なぜなら、それは彼らの体験—他のどの群れもしたことのない体験—の歌だからである。……彼らは、地上から、生きている者の間から、天に移された者たちで、『神と小羊とにささげられる初穂』とみなされる』（黙示録 14:4）。」（各時代の大争闘下巻 430）

個人的な復習問題

1. 神は災いからのどの保護を提供されますか。そしてあなたはどのようにしてそれを得ることができますか。
2. わたしたちはどのように、印のために準備された状態へと至りますか。
3. 残りの民は、教会の中であっても外であっても、自分たちの周りの罪に対して、どのように感じますか。
4. あなたは終わりのためにあなたを準備させる神の約束について、個人的な確証を感じたことがありますか。
5. 麦ともみぎらについての神の幻は、どのようにわたしたちのものと異なりますか。

第一安息日献金

ペルーにおける「ベテル・プロジェクト」のために

ペルーは南アメリカの西部に位置する国です。首都はリマという大都市です。2015 年の人口は 3100 万人を超えました。南アメリカで言いますと、ペルーはブラジル、コロンビア、アルゼンチンに続く第四番目に人口の多い国です。



改革のメッセージがペルーに伝えられたのは、1930 年のことでした。今日ペルーユニオンにはおよそ 3 千人のメンバーがいます。

2012 年 11 月に神様のみ恵みにより、サン・ミゲル地方のカハマルカにある 50 エーカーの土地が、わたしたちに譲渡されました。土地は、チェベン市から 29 キロ、リマの北方 700 キロのところにあります。海拔 430 メートル、土地は肥沃、植物が豊かに繁茂し、気候は穏やかなところ です。

ペルーユニオンは、「ベテル・プロジェクト」という名の下、この土地で行う活動を、短期、中期、長期で計画しています。このプロジェクトには、治療院、伝道学校、集会や会議のためのキャンプ場、大学ともなりうる技術施設、オーガニック農業、また養蜂などが含まれています。

主の使命者は、特にこの終わりの時代に、身体的、道徳的、また霊的健康のために、わたしたちの家族や施設は都市の外に位置しているべきだと勧告しています。この勧告がわたしたちにとってこのプロジェクトの成就における靈感となっています。

これまでのところ、二人の兄弟がこの土地で働いています。彼らは土地をフェンスで囲み、井戸のための穴を掘り終え、ポンプを購入しました。今は建物のためのレンガを作っており、また他の重い機械での働きが続いています。同時に養蜂箱が据えられ、果樹が植えられつつあります。

助けを求めて祈り、地元の働き人、兄弟、姉妹、友人たちの間で基金を集めていますが、このプロジェクトを完成するのに必要な資金的投資額はまだまだ大きなものです。このために、今世界中の親愛なる兄弟姉妹のみなさんに、このプロジェクトに心から捧げてくださるようお願いいたします。

皆さんの惜しみない献金に先立ってお礼を申し上げますと共に、みなさんに天の豊かな祝福がありますようお願いいたします。

ペルーから皆さんの兄弟姉妹より

キリストの再臨

「そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ 14:3)

「キリストが来られるという真理は、つねにすべての人の思いの前に保たれているべきである。」(伝道 220)

推奨文献：各時代の争闘下巻 417-426

日曜日

11月29日

1. 「わたしはまた来る」

- a. イエスが亡くなられる前の約束は何でしたか(ヨハネ 14:1-3)。このお方はどのような姿で昇天なさいましたか。またこれはどのようにこのお方の来臨に見合うものとなりますか(使徒行伝 1:9-11)。

「キリストの再臨のみ約束は、弟子たちの心にいつも鮮明に刻まれていなければならなかった。彼らが昇天されるのを見ていたそのイエスは、この地上で主の働きに献身する人々をみもとに連れて行くために再び来られるのである。『見よ、わたしは終りまで、いつもあなたがたと共にいる』と彼らに言われた同じ声が、彼らを天のみ国で、み前に迎えてくださるのである。」(患難から栄光へ上巻 27)

- b. 世にはあざける者が満ちているにもかかわらず、クリスチャンの希望は何ですか(ペテロ第二 3:3, 4; テトス 2:13)。

「ペテロは、靈感を受けて、世の終わりに至るまで各時代を見通し、キリスト再臨の直前に、世の中に現れる状態を書きしるした。……世のすべてのものの終わりが近づく時に、時のしるしを見分けることのできる忠実な者たちがいるであろう。信仰を告白している多くの者たちが、その行いによって信仰を否定している一方では、最後まで耐え忍ぶ残りの民がいるのである。」(患難から栄光へ下巻 236, 237)

2. 諸天を震う

a. イエスが来られる様を述べなさい (黙示録 1:7; ルカ 21:26)。

「まもなく、東のほうに、人の手の半分くらいの大きさの小さい黒雲が現われる。それは、救い主を囲んでいる雲で、遠くからは、暗黒に包まれているように見える。神の民は、これが人の子のしるしであることを知っている。彼らは、厳粛な沈黙のうちに、その雲が地上に近づくのを見つめる。それは次第に明るさと輝かしさを増し、ついには 大きな白い雲となって、下のほうには焼き尽くす火のような栄光が輝き、上のほうには契約のにじがかかっている。イエスは、偉大な勝利者としておいでになる。……数えることができないほどの聖天使の群れが、天の聖歌を歌いながら付き従う。大空は、『万の幾万倍、千の幾千倍』(黙示録 5:11) .もの、輝く天使たちで満たされたように見える。この光景は、人間のどんな筆によっても描くことができない。……生きている雲が、さらに近づくと、すべての目は、いのちの君をながめる。いまはその聖なる頭を傷つけるいばらの冠はなく、その聖なる額には栄光の冠がある。そのみ顔は、真昼の太陽よりもまぶしく輝く。『その着物にも、そのももにも、「王の王、主の主」という名がしるされていた』(黙示録 19:16)。」(各時代の大争闘下巻 419)

「あざけり笑う声はやんだ。偽りのくちびるは沈黙させられた。『騒々しい声と血まみれの衣』で相戦う戦いの騒ぎ、武器の鳴り響く音は静まる(イザヤ書 9:5 英語訳)。今聞こえてくるのは、祈りと嘆きと悲しみの声だけである。少し前まであざけり笑っていた者たちが、『御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だが、その前に立つことができようか』と叫ぶ。悪人たちは、自分たちが軽べつし拒否してきたおかたの顔を見るよりは、山々の岩石の下に葬られることを願う。」(同上 421)

b. 黙示録 6:12-17 の幻は、どのように他の旧約の預言を確認しますか(イザヤ 2:10, 11, 19; 34:4, 8; ヨエル 3:14-16)。

「サタンにはキリストの来臨のありさまをまねることは許されない。救い主はこの点についての惑わしに対してご自分の民に警告し、再臨のありさまをはっきりと予告された。……この来臨はまねることが不可能である。それは世界じゅうに知られ、全世界の人々が目撃するのである。」(同上 399, 400)

3. 第一の復活

- a. 天地が震われているただ中で、イエスは何をなさいますか（テサロニケ第一 4:16, 17; ヨハネ 5:25; コリント第一 15:51-53）。

「地がよろめき、いなずまがひらめき、雷がとどろく真ただ中で、神のみ子の声が、眠っている聖徒たちを呼び起こす。イエスは義人たちの墓をごらんになり、それから両手を天のほうへ上げて、『目ざめよ、目ざめよ、目ざめよ。ちりの中に眠る者たちよ、起きよ』と呼ばれる。地の全面にわたって、死者はその声を聞き、聞く者は生きる。そして、全地に、あらゆる国民、部族、国語、民族からなる大群の足音が鳴り響く。『死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか』と叫びながら、彼らは死の獄屋から、不死の栄光をまとして現われる（コリント第一 15:55）。そして、生きていた聖徒たちとよみがえった聖徒たちとはともに声をあわせて、勝利の長い喜びの叫びをあげる。」（各時代の争闘下巻 423.424）

- b. キリストの来臨を忠実に待って死んだ人々に、何が起こりますか（ヨハネ 11:25, 26; テサロニケ第一 4:13, 14）。

「どの人もみな、墓に入った時と同じ身長で墓から現われる。……どの人もみな、永遠の若さの新鮮さと活力にあふれてよみがえる。世の初めに、人は、品性だけでなく、容貌や姿も神のみかたちにかたどって創造された。罪のために神のかたちはそこなわれ、ほとんど消えてしまったが、キリストは、その失われたものを回復するためにこられた。キリストは、わたしたちの卑しい体を造り変えて、ご自身の栄光の体に似たものとしてくださる。一度罪に汚されてしまって美を失い、死ぬべき、朽ち果てるべきものとなった体が、完全な、美しい、不死のものとなる。すべての傷や醜さは、墓の中に残される。贖われた者は、長い間失われていたエデンのいのちの木に再び近づくことを許され、最初の栄光に輝く人類の完全な背丈に『成長する』のである（マラキ書 4:2 英語訳）。罪ののろいの最後の痕跡が取り除かれ、キリストに忠実に仕える者たちは、知的にも、霊的にも、身体的にも、主の完全な姿を反映して、『われらの神、主のうらわしさ』を着て現われる。……

天使たちは、『天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集める』（マタイ 24:31）。小さい子供たちは、天使たちに抱かれてきて、母親の腕に返される。長く死に別れていた友人たちは再会して、もう永久に別れることなく、喜びの歌をうたいながら、ともに神の都へと上っていく。」（同上 424, 425）

4. 取り去られるか、取り残されるか

- a. イエスはご自分の再臨時を、聖書的な歴史におけるいつの時代と比較しておられますか (マタイ 24:37; ルカ 17:28)。

「人は、自分自身の考えに合わせて基準を建てる責任を自ら負ってきたために、エホバの律法は辱められてきた。これこそ、悪がこれほど大きくはびこっている理由である。これこそわたしたちの時代がノアやロトの時代のようになってきた理由である。」(ビュ・アンド・ヘラルド 1893 年 5 月 2 日)

- b. これらのいずれの場合も神のさばきの結果は何でしたか (創世記 7:21-23; 19:24, 25)。

- c. 同様に、キリストの来臨の時に、何が起こりますか (ルカ 17:34-37)。

「哲学の論理が、神の審判の恐怖を去り、宗教家が長い平和と繁栄の時代の到来を指摘し、世が事業と快楽、植樹や建築、飲食や歓楽に心を奪われて神の警告を退け、神の使者たちをあざけっているその時、突如として滅びが彼らをおそってくる。そして、それからのがれることは決してできない(テサロニケ第一 5:33 参照)。」(人類のあけぼの上巻 104)

- d. だれがキリストの再臨時の時に、「取り去られ」る人であることを説明しなさい (マタイ 24:40-42; マラキ 3:17)。

「さばきの時、すなわち主がご自身の者たちを毒麦の中から集めておられる時は、最も厳粛な時である。同じ家族に属していた者たちが分離する。印が義人の上に押される。……神の戒めに従順であった人々は、光のうちにいる聖徒たちの群れと一つになる。彼らは門を通して都の中へ入り、命の木にあずかる権利を持っている。一人は取り去られる。彼の名前は命の書にあるが、その一方で彼が交わっていた人々は、永遠の神からの分離のしるしを持つようになる。」(牧師への証 234, 235)

5. あなたは準備ができているか

- a. キリストが来られる時に生きている悪人に、何が起こりますか（テサロニケ第二 1:7-9; 2:8; 詩篇 97:3）。
- b. 悪人はルカ 17:37 でイエスによって述べられた「はげたか」にとって、何になりますか（黙示録 19:17, 18; エゼキエル 39:17-20）。
- c. 何が先に待ち受けているかを知って、わたしたちは何に焦点を合わせているべきですか（ペテロ第二 3:11; 詩篇 24:3, 4; ユダ 23, 24）。

「イエスは、来られる。しかし、それは、初臨の時にベツレヘムの赤子として来られたような姿ではない。また、弟子たちが神を賛美して、大声で叫ぶ中を、ろばに乗ってエルサレムに入っていかれたように、来られるのでもない。彼は、天の父の栄光のうちにすべての聖なる天使たちを従えて、この地上に来られるのである。全天には、天使がいなくなる。彼がオリブ山から昇天されたときに、ガリラヤの人々が天を仰いだように、彼を待ち望む聖徒たちは天を仰ぐのである。その時、聖なる人々、すなわち、柔和な模範に完全に従った人々だけが、彼を仰ぎ見て、『見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる』と、熱狂的な喜びに満たされて叫ぶのである（イザヤ 25:9）。」（初代文集 208, 209）

個人的な復習問題

1. イエスはご自分が戻ってこられることについて、どの保証をお与えになりましたか。
2. キリストの再臨のすがたについて、どのようにこのお方がお教えになった真理から、偽りの主張を見分けますか。
3. イエスが雲に乗ってあらわれる時から、聖徒たちが天に戻られるこのお方に加わる時までのできごとの順番を述べなさい。
4. イエスが戻ってこられるときに、「取り去られ」たいですか、「取り残されたい」ですか。
5. どのようにしてキリストを待っている人々の一人となることを確認できますか。

最後の敵

「最後の敵として滅ぼされるのが、死である。」(コリント第一 15:26)

「天のふんいきの中では、苦痛は存在することができない。もはや涙はなく、葬式の行列も喪章もない。」(各時代の大争闘下巻 464)

推奨文献：各時代の大争闘下巻 277-303

日曜日

12月6日

1. 死の起源とはじめの大きな嘘

- a. 何に関連して、聖書的に初めて死について言及されていますか(創世記 2:17)。この木のところで交わされた会話の中でへびは、どのような嘘を言いましたか(創世記 3:1-4)。

「アダムに向かって、服従することなしに生命を約束したのは、大欺瞞者サタンだけであった。そして、エデンの園でへびがエバに言った『あなたは決して死ぬことはないでしょう』(創世記 3:4)という言葉は、靈魂の不滅について語られた最初の説教であった。しかも、サタンの権威だけに基づくこの宣言が、キリスト教界の講壇からくり返して叫ばれ、そして、われわれの祖先が受け入れたように、人類の大部分は、簡単にそれを受け入れているのである。『罪を犯す魂は死ぬ』という神の宣言が、罪を犯す魂は死なないで永遠に生きるという意味に解されている(エゼキエル書 18:20)。サタンの言葉は軽々しく信じながら、神のみ言葉はこれほど信じようとしぬ人々の不思議な迷妄には、驚かずにはいられないのである。」(各時代の大争闘下巻 281)

- b. この木からとって食べるという誘惑に直面して、最初の両親は何をしましたか(創世記 3:6)。この罪の結果、何がもたらされましたか(ローマ 5:12; 6:23)。

「罪の価は高尚な独立や永遠の生命ではなくて、奴隷状態、滅亡、死であることが、今すべての人に明らかになる。」(各時代の大争闘下巻 454)

2. 死の性質

- a. 神ははじめの人に命を与えるために、どのように体と息を一つにされましたか（創世記 2:7）。魂が死ぬと、どのようになりますか（詩篇 146:4）。
- b. 人は死に対してどのような支配権がありますか。また死ぬとき、どのような状態に入りますか（詩篇 6:5; 89:48; 115:17; 伝道の書 8:8; 9:5）。

「死者に意識がある」という教理は、靈魂不滅という根本的な誤りに基づくものである。そしてこの教理は、永遠の責め苦という教えと同様、聖書の教えに反するものであり、理性の命じるところにも、人間の慈悲の心にも、相反するものである。一般に信じられているところによれば、贖われて天にある者たちは、地上で起きるすべてのことを、そして特に、彼らがあとに残してきた友人たちの生活を、よく知っているというのである。しかし、死者が、生きている人々の悩みを知り、自分の愛する者たちの罪を目撃し、彼らが人生のあらゆる悲哀、失望、苦悩に耐えるのを見ることが、どうして幸福の源となり得ようか。地上の友人たちの上をさまよう者に、天国の喜びがどれだけ味わえようか。また、息が絶えたとすぐに、悔い改めなかった者の魂は地獄の炎の中に投げ込まれるという考えは、なんと嫌悪すべきものであろうか。自分たちの友人が、不用意のまま墓にくだり、永遠の苦悩に陥るのを見る人々は、どんなに激しい苦しみを味わうことであろうか。このような悲惨なことを考えて、気が狂ったものも多いのである。」（各時代の大争闘下巻 296）

- c. 死について、イエスは何を言われましたか（マタイ 9:18, 19, 23, 24; ヨハネ 11:11-14）。

「キリストは、信じる子らにとって死は眠りであると言っておられる。彼らの生命はキリストとともに神のうちにかくれているのであって、最後のラッパが鳴りわたるときまで、死ぬ者はキリストのうちに眠るのである。」（各時代の希望中巻 341）

- d. 使徒ペテロは、義人が死んだ時ただちに天国へ行くのではないことを、どのように示していますか（使徒行伝 2:29, 34）。

3. ヘビの嘘が再び語られる

- a. いわゆる死者との交信を含む異教の習慣に対してイスラエル人は、どのように警告されていましたか（レビ記 19:28; 申命記 14:1）。

「古代の魔術や魔法というものは、だいたいそのすべてが死者と交通することができるという信仰に基づいていた。降神術を行なっている者たちは、死者と交通することができて、死者から将来の事件について聞くことができると主張した。……

死者との交通というこの同じ信仰が、異教の偶像礼拝の基礎になっている。異教の神々は、死んだ英雄の霊を神にまつられたものと信じられていた。であるから、異教の宗教は、死者の礼拝であつた。……

死者を神格化することが、ほとんどすべての異教制度の主要な部分を占め、それとともに死者との交通の主張もまた同様に重大な部分であつた。神々は、自分たちの意志を人間に伝え、また、問われるならば、人々に勧告を与えると信じられていた。ギリシャやローマの有名な神託は、この種のものであつた。」（人類のあけぼの下巻 368, 369）

- b. サウル王は、どのようにして死んだ預言者の霊だとされる偽装の下、サタンから勧告を求めるよう導かれましたか（サムエル記上 28:7-14）。

- c. すべての生ける神の真の礼拝者が正しく見る力は、何であるべきですか（イザヤ 8:19, 20）。

「もし人々が、人間の性質や死人の状態について聖書の中に明らかに述べられている真理を喜んで受け入れていたら、心霊術の主張や現象の中に、力としるしと偽りの不思議とを伴ったサタンの働きを認めるであろう。しかし多くの人々は、肉の思いに都合のよい自由を放棄したり、愛好している罪を捨てたりするよりはむしろ、光に目を閉じ、警告も顧みないで突き進んでいく。するとサタンは、彼らの回りにわなを仕掛け、彼らを捕えてしまうのである。彼らが『自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった』から、『そこで神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送』られるのである（テサロニケ第二 2:10, 11）。」（各時代の犬争闘下巻 314）

4. 死に対するキリストの勝利

- a. 命と死を支配するのは、だれですか（詩篇 68:20; 黙示録 1:18）。死の鍵を持っているにもかかわらず、イエスは何をなさいましたか（ヘブル 2:9; 使徒行伝 2:24）。

「キリストのうちには、借りたものでもなければ、ほかから由来したものでもない、本来の生命がある。『御子を持つ者はいのちを持』つ（ヨハネ第一 5:12）。キリストの神性は、永遠の生命についての信者の確信である。『わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか』とイエスは言われた（ヨハネ 11:25, 26）。キリストはここでご自分の再臨の時を予期しておられる。その時、死せる義人は朽ちない者としてよみがえり、生ける義人は死を見ないで天へ移されるのである。……キリストはみことばとみわざによって、ご自分がよみがえりの創始者であることを宣言された。まもなくご自分が十字架の上に死のうとしておられたキリストは、よみの征服者として死の鍵をもって立ち、永遠の生命を与える権利と権力を主張された。」（各時代の希望中巻 345, 346）

- b. イエスは死に対して、何をされましたか（テモテ第二 1:10; ヘブル 2:14, 15）。

「『人は死んだら、また生きるだろうか』との質問は答えられた。罪の刑罰を負われることによって、墓の中に下られることによって、キリストは信仰のうちに死ぬすべての者のために墓を明るくされた。人のかたちのうちにおられた神は、福音を通して命と不死を表された。死ぬことによって、キリストはご自分を信じるすべての者に永遠の命を確保された。死ぬことによって、このお方は罪と不忠実の創始者に罪の刑罰—永遠の死—を受けるよう有罪宣告を下されたのである。」（教会への証 6 巻 230）

- c. 死の刑罰と対照的に、神の賜物は何ですか（ローマ 6:23; ヨハネ 3:16）。

「信じる者にとって、キリストはよみがえりであり、いのちである。罪のために失われたいのちは、われらの救い主をとおして回復される。なぜなら、キリストはご自身のうちにいのちをもっておられて、みこころのままに人をよみがえらせられるからである。」（各時代の希望下巻 318）

「自然死を通過するすべての信徒たちは、神の御子の肉を食べ、血を飲むことを通して、彼らのうちに永遠の命、すなわちイエス・キリストの命を持っている。死ぬことによって、イエスはご自分を信じる者が永遠に死ぬことを不可能とされた。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 926）

5. 死が減ぼされる

a. 第一と第二の復活の後、何が起こりますか (黙示録 20:4-15)。

「千年期の終わりに、キリストは……死んだ悪人たちに、さばきの執行を受けるためによみがえるよう命じられる。……第一の復活の時によみがえらせられた人たちと比較して、なんという相違であろう。義人たちは朽ちることのない若さと美しさを着せられていた。ところがこの悪人たちは病気と死の跡を帯びている。」(各時代の大争闘下巻 446)

b. すべての悪人に、最終的に何が起こりますか (マタイ 13:40-42)。永遠の刑罰ではなく正確には、何が彼らに与えられますか (マラキ 4:1-3)。

「一瞬のうちに滅ぼされる者もあり、多くの日の間苦しむ者もある。みな『その行いにしたが』って罰せられる (詩篇 28:4)。……サタンは自分自身の反逆の罪だけでなく、神の民に犯させたすべての罪のために苦しむ。彼の受ける刑罰は、彼がだました者たちの刑罰よりずっと重い。サタンの欺きによって墮落した者たちがすべて滅びたのちも、彼はまだ生き残って苦しみを受ける。きよめの火によって、悪人たちは根も枝もついに滅ぼされた。サタンが根であり、サタンに従う者たちが枝である。律法の刑罰は全部くだり、正義の要求は果たされた。天と地はこれを見て、主の義を宣言する。」(同上 459.460)

c. 死そのものにさえ、何が起こりますか (コリント第一 15:26; 黙示録 21:4)。

個人的な復習問題

1. 死はどのようにしてこの世にもたらされましたか。
2. 死後、人はどのような状態に入りますか。
3. へびの最初の嘘は、どのように歴史を通じて永続してきましたか。
4. 死ののろいに対して、キリストは何をなさいましたか。
5. わたしたちは悪人が永遠に焼かれるままにしておかれるのではないことが、どのようにわかりますか。

千年紀と新地

「柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう。」(マタイ 5:5)

「神のすべての宇宙は清まり、大争闘は、永遠に終わりを告げた。どこを見ても、何を見ても、すべては美しく聖であった。……栄光に輝く美しい新しい地球は、聖徒たちの永遠の嗣業であった。」(初代文集 474)

推奨文献： 初代文集 66-71, 463- 472

日曜日

12月13日

1. 栄光の御国に入る

a. キリストの再臨後、忠実な者たちはどこにいますか (テサロニケ第一 4:15-17)。

「われわれは、一緒に雲の中に入り、七日間のぼって行って、ガラスの海に着いた。そのとき、イエスは、冠を持って来られて、ご自分の右の手で、それをわれわれの頭にのせてくださった。彼は、われわれに黄金の立琴と勝利のしゅろの枝をお与えになった。……すべての者は、自分たちの冠に心から満足していた。そして、彼らはみな、肩から足までとどく輝く白い衣を着ていた。」(初代文集 66)

b. 何が聖徒たちに新エルサレムに入る権利を与えますか (詩篇 87:3-6; ガラテヤ 4:26; 黙示録 22:14; イザヤ 26:1, 2)。

「ガラスの海の上を都の門に向かって進むわれわれを天使たちが、取り巻いていた。イエスは、力強い栄光のみ手をあげて、光り輝くちょうつがいのついた真珠の門を押し開き、『あなたがたは、わたしの血によって、あなたがたの衣を洗い、わたしの真理のために堅くたった。中に入りなさい』とわれわれに言われた。われわれはみな進み入り、都に入る完全な権利が自分たちにあるのだと感じた。」(同上)

2. 千年紀

- a. 何年の間、聖徒たちは天で過ごしますか（黙示録 20:4）。この期間に何をしますか（コリント第一 6:2; マタイ 19:28）。

「第一と第二の復活の間の千年間に、悪人の審判が行なわれる。……〔義人たち〕はキリストと一致して悪人を審き、その行為を法規の書すなわち聖書と照らし合わせ、それぞれのなしたわざに従って、すべての者に判決を下す。その時、悪人は、それぞれのわざに応じて、受けねばならない苦しみが定められる。そして、それが、死の書の彼らの名のところに記録される。」（各時代の犬争闘下巻 444）

- b. 千年紀の間、サタンはどこにいますか（黙示録 20:1-3.）。この期間、地はどのような状態にありますか（エレミヤ 4:23-27）。

「ここ〔この地上〕が、サタンと悪天使たちが、千年の間住むところとなる。サタンは、地球に制限されているから、他世界に近づいて、決して墮落したことのない者たちを試み悩ますことはできない。こういう意味で、サタンはつながれるのである。彼が働きかけることのできる者が、だれもいなくなってしまうのである。幾世紀にもわたって彼のただ一つの楽しみであつた欺瞞と破壊の行為が、全くできなくなるのである。……

サタンの反逆の働きは、六千年の間、『地を震わせ』た。彼は、『世界を荒野のようにし、その都市をこわし』た。彼は、『捕えた者をその家に解き帰さなかった。』六千年の間、神の民は、彼の牢獄に入れられてきた。そして彼は、彼らを永久に捕えておこうとした。しかし、キリストは、彼の鎖を断ち切つて、捕らわれている人々を解放されたのである。

今となつては、悪人たちでさえ、サタンの力の及ばないところにおかれている。サタンは悪天使たちとだけ取り残され、罪がもたらしたのろいの結果を悟る。……

千年の間、サタンは、荒れ果てた地上をさまよい歩いて、自分が神の律法に反逆した結果をながめる。この間のサタンの苦しみは非常なものである。サタンは、墮落して以来、たえず働き続けて、反省するひまがなかった。ところが今は、力を奪われ、最初に天の政府に反逆して以来自分がどんな事をしてきたかを熟考させられる。そして彼は、恐ろしい将来を思つてふるえおののく。その時には彼は、自分が行なつたすべての悪のために苦しまねばならず、また、自分が他の者に犯させた罪に対して罰を受けねばならないのである。」（同上 442-444）

3. 本部を移す

a. 天における審判の結論として、何が行われますか（黙示録 21:2, 3）。

「われわれはみな、イエスを先頭にして、都からこの地上の大きな山の上におりてきたがその山は、イエスを支えることができずに、崩れ去って大きな平原となった。そのとき、上を見ると、十二の土台と十二の門のある大いなる都が見えた。門は各々の側に三つずつあって、それぞれの門に天使が立っていた。われわれはみな、『都が、大いなる都がおりてくる。神のもとを出て、天から下ってくる』と叫んだ。都は、おりてきて、われわれが立っていた所にとどまった。」（初代文集 67, 68）

b. 新エルサレムはどこに位置するようになりますか（ゼカリヤ 14:4）。

「イエスは、昇天の場所として、在世中そのご臨在によって幾度もきよいところとされた場所をえられた。このような栄光を受けることになったのは、ダビデの都のあった場所シオンの山でもなければ、神殿のあった場所モリヤの山でもなかった。そこでは、キリストがあざけられ、捨てられたのであった。そこでは、もっと強い愛の潮流となってもどつて行くあわれみの波が、岩のようにかたくなな心によって打ち返されたのであった。そこからイエスは、心に重荷を負い、疲れはててオリブ山へ休みに行かれたのだった。聖なるシカイナは、最初の神殿を離れるときに、えられた都を捨てるのをいやがるかのように東の山にとどまった。同じようにキリストは、燃える思いをもってエルサレムを見わたしながらオリブ山に立たれた。山の森や谷はイエスの祈りと涙できよめられたのだった。そのけわしい坂はイエスを王として宣言した群衆の勝利の叫びをこだましたのだった。その下り坂にあるベタニヤにはイエスがよく行かれたラザロの家があった。山のふもとのゲッセマネの園で、主はただひとり祈り、苦しまれたのだった。この山から、イエスは天へのぼろうとしておられた。ふたたびイエスがこられるとき、その足はこの山のいただきをふまれるであろう。悲しみの人としてではなく、輝かしい勝利の王として、イエスはオリブ山に立たれるであろう。その時ユダヤ人のハレルヤと異邦人のホサナとが入りまじり、あがなわれた人々の声が、大いなる軍勢のように、『すべての者の主なるキリストに王冠を』との歓呼となって高まるであろう。」（各時代の希望下巻 379, 380）

4. 新地

- a. もはや悪人がいなくなったとき、地に何が起こりますか（黙示録 21:1; 詩篇 102:25, 26）。
- b. 贖われた者は新地で何をしますか（イザヤ 32:18; 65:21, 22）。

「それからわれわれは、都の外の輝かしい光景に目を向けはじめた。そこでわたしは、実に輝かしい家々を見た。それらは銀のように見え、美しい真珠をちりばめた四本の柱に支えられていた。これには聖徒たちが住むのであった。どの家にも黄金の棚があった。多くの聖徒たちが家の中に入って行って光輝く冠を脱いで棚の上に置き、それから家のそばにある畑へ出て行って土を扱うのをわたしは見た。それは、地上のわれわれがしなければならないこととは全く違っていた。輝く光が彼らの頭の周りを照らし、彼らは絶えず声をあげて、神を賛美していた。」（初代文集 68）

「贖われた人々は、新しい地において、最初アダムとエバに幸福をもたらした仕事と楽しみに従事する。彼らはエデンの生活をする。それは楽園と畑の生活である。（国と指導者下巻 333）

- c. 聖書は新地の環境を、どのように述べていますか（イザヤ 11:6-9; 65:25）。

「わたしは、あらゆる種類の花が満ちている別の野原を見た。そしてわたしは、花を摘みながら、『これは、しぼむことがない』と叫んだ。次にわたしは、この上もなく美しい背の高い草の生えた野原を見た。それは、生き生きとした緑色で、銀と金を反映し、誇らかに揺れ動いて、王なるイエスに栄光を帰していた。それから、ライオン、小羊、ひょう、おおかみなど、あらゆる種類の動物がいっぱいいて、みな仲良く一緒にいる野原に入った。われわれが、動物たちの中を通ると、彼らは静かについて来た。それからわれわれは森に入ったが、それは、この地上の森のように暗くはなかった。それは明るく、一面に輝いていた。木の枝は揺れ動いていた。われわれはみな、『心を安んじて荒野に住み、森の中に眠る』と叫んだ。」（初代文集 68, 69）

「〔子どもたち〕の心は主のご生涯の物語で満たされ、彼らの創造は来るべき世の栄光を描くように育成されなければならない。」（家庭の教育 530）

5. 地を受け継ぐ

- a. 現在の世では捨てられたが、次の世を受け継ぐ人々について、何と預言されていますか（詩篇 37:8-11）。

「柔和な者は『地を受けつぐであろう』（マタイ 5:5）。罪がこの世界に入り、最初の両親がこの美しい地、彼らの王国の統治権を失ったのは、自己を高める野心によってであった。キリストが失われたものを贖われるのは自己放棄によってである。主はわたしたちが主と同じく勝利しなければならないと言われる（黙示録 6:21 参照）。『柔和な者は国を継ぐ』時、わたしたちは謙そんと自己屈服によって、主とともに世継ぎとなるのである。……

柔和な者に約束された地は、死の陰とのろいで暗くなったこの地上のようなところではない。……

そこには失望も、悲しみも、罪も、わたしは病気だと言う者もない。また葬式の行列も、嘆きも、死も、別離も、悲嘆もない。そこにはイエスがおられ、平和がある。」（祝福の山 21）

- b. 新地に住む人々の品性はどのようなものですか（ペテロ第二 3:13）。

「悪人たちの足は、新しく造られた地を汚すことはない。火が天の神のところから下って来て彼らを滅ぼし、根も枝もともに焼きつくす。サタンが根で、その子供たちが枝である。」（初代文集 120）

「悪人を焼きつくしたのと同じ神からの火が、全地を清めた。裂けて岩角のけわしい山々は激しい熱に焼けとけた。また、大気もすべての田畑も焼けうせてしまった。こうして、われわれの嗣業が、栄光に輝いて美しくわれわれの眼前に展開された。そして、われわれは、新たにされた全地を受けついだのである。」（同上 123, 124）

個人的な復習問題

1. どの条件に基づいて、人は新エルサレムの市民とみなされますか。
2. 千年紀の間、天と地には何が起こりますか。
3. なぜ神は地をご自分の本部の新しい場所としてお選びになるのですか。
4. 新しくされた地を描写しなさい。
5. どのような種類の人々が新地を受け継ぎますか。

あなたのうちにある御国

「わたしは戦いをりっぱに戦いぬぎ、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。」(テモテ第二 4:7, 8)

「命がキリストと共に隠されている人々、この地において信仰の良き戦いを闘ってきた人々は、神の御国において贖い主の栄光に輝き出る。」(教会への証 9 卷 287)

推奨文献：各時代の大争闘下巻 460-467

日曜日

12月20日

1. 霊とまことをもって

- a. 現在のこの世において、イエスはご自分の御国に関して、何と宣言されましたか(ルカ 17:20, 21; ヨハネ 4:20-24)。

「人は、聖なる山や聖なる宮を求めることによって天とのまじわりにはいれるのではない。宗教は外面的な形式や儀式に限定されるのではない。神から出ている宗教だけが神へいたる宗教である。神に正しく仕えるためには、神のみたまによって生れなければならない。みたまは心をきよめ、思いを新たにし、神を知り愛する新しい能力をわれわれに与える。それは神のすべてのご要求によろこんで従う心をわれわれに与える。これが真の礼拝である。」(各時代の希望上巻 224, 225)

- b. 御国はだれに与えられますか(ルカ 12:32; マタイ 5:3; 7:21)。

「魂が神を追い求めるところにはどこでもみたまの働きがあらわれ、神はその魂にご自身をあらわされる。神はこのような礼拝者を求めておられる。神は彼らを受け入れて、ご自分の息子娘にしようと待っておられる。」(同上 225)

2. 変わらない望み

- a. キリストを信じる信徒として、わたしたちの望みは何ですか (テトス 2:13)。
- b. 天に入る人々に何が与えられますか (テモテ第二 4:8)。これによってわたしたちは、どのように揺るぎなく忠実であるように励まされるべきですか (黙示録 3:11)。

「勝利者にはあせることのない栄光の冠と神の命と共に続く命が約束されている。キリストは『勝利を得る者には、神のパラダイスにあるいのちの木の實を食べることをゆるそう』。『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』と宣言しておられる (黙示録 2:7; コリント第一 2:9)。わたしたちの主の御国に入る資格を得るために奮闘しようではないか。キリスト自らが来られてヨハネにパトモス島で提示された福音を勤勉に研究しよう。その福音は、『イエス・キリストの黙示(啓示)』と呼ばれており、『この黙示は、神が、すぐにも起るべきことをその僕たちに示す』ものである。いつも、『この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである』ことを覚えていよう (黙示録 1:1, 3)。」(サインズ・オブ・タイムズ 1903 年 2 月 4 日)

- c. 時に悪が勝利するように見えても、わたしたちにはどのような保証がありますか (ローマ 8:28; コリント第二 13:8)。

「幾世紀にもわたる迫害、闘争、暗黒の中にあつて、神は教会を支えてこられた。神は教会に落ちかかってくるどんな暗雲に対しても備えをし、みわざを妨害するために起こるどんな反対勢力も予見された。すべての事は神の予告通りに起こった。神は教会を見捨てておかれず、起こるべきことを預言のことばで明らかにされた。そして預言者がみ霊に感じて預言した事は、成就した。神のすべての目的は達成される。神の律法はみ座につながっていて、どんな悪の力も、それを滅ぼすことはできない。真理は神の靈感を受け、神に守られている。それはすべての反対に勝利する。」(患難から栄光へ上巻 3, 4)

3. 御国を早める

- a. 神の御国に関して、わたしたちは何を祈るべきですか(マタイ 6:10)。この祈りは、わたしたちの優先順位に、どのように感化を及ぼすべきですか(33 節)。

「愛する兄弟姉妹がた、神の戒めとイエス・キリストのあかしを常に心に抱いていよう。そして、それに世の思いと煩いを閉め出していただく。寝る時も起きる時もこれを瞑想しよう。人の子の来られることを常に考えて生活し、すべての行動をとろう。印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。」(初代文集 130)

- b. わたしたちはキリストの来臨が近いことにおいて、どのような役割がありますか(マタイ 24:14; ペテロ第二 3:12)。

「主イエス・キリストの再臨を待ち望むばかりでなく、それを早めることが、すべてのクリスチャンの特権である(ペテロ第二 3:12 文語訳参照)。キリストの名をとるすべての者が、神のみ栄えのために実を結ぶなら、福音の種は、どんなにすみやかに、全世界にまかれることであろう。世界の最後の大収穫は、急速に熟すであろう。そして、この尊い実を集めるために、キリストはおいでになるのである。」(キリストの実物教訓 47)

「この世の国では、地位は自分を高めることを意味した。……勢力、富、教育は、指導者たちが大衆を自分のために使用するために彼らを支配する手段であった。……

キリストは、これと異なった原則の上にみ国を築いておられた。主は人々を権力の立場にではなく、奉仕の立場に召し、強い者を弱い者の欠点を負うために召された。権力、地位、才能、教育のある人は、それだけほかの人々に仕える一層大きな義務を負わされた。……

ご自分の弟子たちの間にあって、キリストは、あらゆる意味で、世話人、すなわち重荷を負う人であられた。主は弟子たちと貧乏を共にし、彼らのために克己を実行し、彼らの先に立って、もっと困難な場所を平らにし、まもなくご自身の生命を捨てることによって地上におけるご自分の働きを完成されるのであった。キリストが実行された原則は、ご自分のからだである教会の信者を行動させる動機となるのである。……キリストのみ国では、キリストがお与えになった模範に従い、キリストの羊の群れの牧者として活動する者が最も大いなる者である。」(各時代の希望中巻 369, 370)

4. 思い起こさせるもの

- a. 来るべき御国をわたしたちに思い起こさせる儀式は何ですか（ルカ 22:14-20; コリント第一 11:26）。

「聖さん式は、キリストの死の結果達成された大いなる救済を記念するために与えられたのであった。主が力と栄光のうちにふたたびおいでになるまで、この儀式は守られる。それは、われわれのためのキリストの大いなるみわががわれわれの心のうちに生きつづけるための手段である。」（各時代の希望下巻 131）

「キリストがご自分の民に会い、その臨在によって彼らを力づけられるのは、主が自らお定めになったこのような式においてである。」（同上 137）

- b. わたしたちが苦難や迫害に直面しても、何を思いに留めているべきですか（マタイ 5:10; コリント第二 4:16-18）。

「あなたに訪れた苦難の多くは、神の知恵のうちに、あなたを恵みのみ座に近づけるためであった。このお方はご自分の子らを悲しみと試練によって和らげ、制せられる。この世は神の作業場であって、わたしたちを天の宮廷にふさわしいものとされる。このお方はわたしたちのわななく心に、粗さや不ぞろいが取り除かれるまで削り刀をお用いになる。そして、わたしたちは天の建物における自分たちのしるべき場所にふさわしいものとされるのである。苦難や嘆きを通して、クリスチャンはきよめられ、強められて、キリストがお与えになった型に従った品性を発達させる。真実な信心深い生涯の感化力は計り知れない。それは家庭や友人などの身近な輪を越えて行き、光を注いで魂をイエスへと勝ち取るのである。」（教会への証 4 巻 143）

「日々神に献身しているすべての人によって、わたしたちの宗教の明るく活気づける面が提示されるようになる。わたしたちは悲しむべきものと思われる試練を嘆いて語ることによって、神を辱めるべきではない。教育者として受け入れるすべての試練は喜びを生み出す。宗教生活全体は、引き上げ、高め、高尚にし、良い言葉と行いに香る。敵は、魂を落胆させ、意気消沈させ、嘆かせ、うめかせるのを喜ぶ。彼はわたしたちの信仰の結果に関してそのような印象を残したいのである。しかし、神は思いが低い水準を受け入れるようにとは意図しておられない。このお方はすべての魂が贖い主の守りの力のうちに勝利することを望んでおられる。」（同上 6 巻 365, 366）

5. 終わりのない御国

- a. 使徒たちの訓告を視野に、わたしたちは今日より何をすべきですか（ヨハネ第一 2:28; ヨハネ 3:2, 3; ペテロ第二 1:10, 11）。
- b. 永遠に続く御国で、わたしたちはどのように永遠を過ごしますか（黙示録 5:13）。

「永遠の年月が経過するにつれて、神とキリストについてますます豊かですますます輝かしい啓示がもたらされる。知識が進歩していくように、愛と尊敬と幸福も増していく。人々は神について学べば学ぶほど、ますます神のご品性に感嘆するようになる。イエスが彼らの前に、贖いの富と、サタンとの大争闘における驚くべき功績とをお示しになると、贖われた者たちの心はいっそう熱烈な献身の念に燃え立ち、いよいよ喜びに満たされて黄金の立琴をかき鳴らし、万の幾万倍、千の幾千倍の声の一つになり、賛美の一大コーラスとなって盛りあがる。……

大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたおかたから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる。」（各時代の大争闘下巻 467）

個人的な復習問題

1. わたしたちは神の霊的な御国における自分たちの場所を、どのように確保しますか。
2. 善悪の戦いの最中で、どの約束がわたしたちに勇気を与えることができますか。
3. イエスの来臨を早めるために、わたしたちは何ができますか。
4. 永遠を視野にとどめておくために助けとなるいくつかのことを説明しなさい。
5. 永遠のためのあなたの計画は何ですか。

第一安息日献金



10月3日

西インドネシアミッションの
礼拝堂のために
(4 ページ参照)

11月7日

伝道地のための文献
(30 ページ参照)



12月5日

ペルーにおける
「ベテル・プロジェクト」のために
(51 ページ参照)